

## 業績目録（一ノ瀬正和）

著者	東北大学史料館
雑誌名	東北大学定年退職教員業績目録
号	2019-14
発行年	2020-03
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10097/00134896">http://hdl.handle.net/10097/00134896</a>

東北大学定年退職教員業績目録第 2019-14 号

一ノ瀬 正和 教授 業績目録

令和 2 年 3 月  
東北大学史料館

# 一ノ瀬 正和

ICHINOSE Masakazu

---

最終所属部局	医学系研究科 内科病態学講座 呼吸器内科学分野	
職名	教授	
生年月日	1954年9月19日	
出身学校	東北大学医学部医学科	1980年卒業
取得学位	医学博士	1990年
略歴		
1980年4月	東北大学医学部附属病院第一内科研修	
1980年5月	岩手県立胆沢病院内科 研修医	
1982年4月	東北大学医学部附属病院 医員	
1988年1月	英国立心肺研究所胸部内科留学	
1990年2月	東北大学医学部附属病院 医員(同上より帰国)	
1990年6月	東北大学医学部附属病院 助手	
2001年2月	東北大学大学院医学系研究科感染病態学分野 講師	
2002年9月	東北大学大学院医学系研究科感染病態学分野 助教授	
2003年5月	和歌山県立医科大学医学部内科学第三講座 教授	
2012年5月	東北大学大学院医学系研究科呼吸器内科学分野 教授	

---

## <研究活動に関する情報>

### 専門分野

- ・ 呼吸器内科学

### 研究課題

1. 慢性閉塞性肺疾患(COPD)の病態解明と新規治療法の確立
2. COPD 合併喘息の新規治療法開発等に関する研究

### 所属学会

1. 日本内科学会(評議員、認定医、指導医)
2. 日本呼吸器学会(常務理事、理事、支部長、代議員、専門医、指導医)
3. 日本アレルギー学会(評議員、支部長)
4. 日本癌学会
5. 日本肺癌学会
6. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会
7. 日本NO学会(理事、企画委員)
8. American Thoracic Society
9. European Respiratory Society
10. Asian Pacific Society of Respiriology

### 会議の主催・運営

- ・ 第49回臨床呼吸機能講習会会長(平成21年・仙台)
- ・ 第10回NO学会学術集会会長(平成22年6月・京都)
- ・ 第76回日本呼吸器学会近畿地方会会長(平成22年12月・大阪)
- ・ 第106回日本結核病学会近畿地方会会長(平成22年12月・大阪)
- ・ 第98回日本呼吸器学会東北地方会会長(平成26年3月・仙台)

- ・ 第 204 回日本内科学会東北地方会会長(平成 27 年 2 月・仙台)
- ・ 第 205 回日本内科学会東北地方会会長(平成 27 年 6 月・仙台)
- ・ 第 207 回日本内科学会東北地方会会長(平成 28 年 2 月・仙台)
- ・ 第 208 回日本内科学会東北地方会会長(平成 28 年 7 月・仙台)
- ・ 第 1 回日本アレルギー学会東北地方会会長(平成 31 年 2 月・仙台)

#### ガイドライン作成

- ・ **COPD(慢性閉塞性肺疾患)診断と治療のためのガイドライン 第 2 版**. 日本呼吸器学会 COPD ガイドライン第 2 版作成委員会(編). 東京:メディカルレビュー社;2004. 作成委員
- ・ **酸素療法ガイドライン**. 日本呼吸器学会肺生理専門委員会, 日本呼吸管理学会酸素療法ガイドライン作成委員会(編). 東京:メディカルレビュー社;2006. 日本呼吸器学会肺生理専門委員会委員
- ・ **呼吸機能検査ガイドライン II —血液ガス、パルスオキシメーター**. 日本呼吸器学会 肺生理専門委員会「呼吸機能検査ガイドラインII」作成委員会(編). 東京:メディカルレビュー社;2006. 作成委員
- ・ **スパイロメリーハンドブック～日常診療で簡単に行える呼吸機能検査**. 日本呼吸器学会肺生理専門委員会(編). 東京:メディカルレビュー社;2007. 日本呼吸器学会肺生理専門委員会副委員長
- ・ **臨床呼吸機能検査 第 7 版**. 日本呼吸器学会肺生理専門委員会(編). 東京:メディカルレビュー社;2008. 日本呼吸器学会肺生理専門委員会副委員長
- ・ **臨床呼吸機能検査 第 8 版**. 日本呼吸器学会肺生理専門委員会(編). 東京:メディカルレビュー社;2016. 日本呼吸器学会肺生理専門委員会委員長
- ・ **喘息予防・管理ガイドライン 2009**. 一般社団法人日本アレルギー学会喘息ガイドライン専門部会(監修), 「喘息予防・管理ガイドライン 2009」作成委員(作成). 東京:協和企画; 2009. 専門部会委員
- ・ **COPD(慢性閉塞性肺疾患)診断と治療のためのガイドライン 第 3 版**. 日本呼吸器学会 COPD ガイドライン第 3 版作成委員会(編). 東京:メディカルレビュー社;2009. 作成委員
- ・ **喘息予防・管理ガイドライン 2012**. 一般社団法人日本アレルギー学会喘息ガイドライン専門部会(監修), 「喘息予防・管理ガイドライン 2012」作成委員(作成). 東京:協和企画; 2012. 専門部会委員
- ・ **COPD(慢性閉塞性肺疾患)診断と治療のためのガイドライン 第 4 版**. 日本呼吸器学会 COPD ガイドライン第 4 版作成委員会(編). 東京:メディカルレビュー社;2013. 責任編集委員
- ・ **喘息予防・管理ガイドライン 2015**. 一般社団法人日本アレルギー学会喘息ガイドライン

専門部会(監修),「喘息予防・管理ガイドライン 2015」作成委員(作成).東京:協和企画;  
2015. 一般社団法人日本アレルギー学会アレルギー疾患ガイドライン作成委員会, 一  
般社団法人日本アレルギー学会喘息ガイドライン専門部会委員

- ・ **酸素療法マニュアル**. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会酸素療法マニュアル作成委  
員会, 日本呼吸器学会肺生理専門委員会(編). 東京:メディカルレビュー社;2017. 日本  
呼吸器学会肺生理専門委員会委員長
- ・ **COPD(慢性閉塞性肺疾患)診断と治療のためのガイドライン 第5版**. 日本呼吸器学会  
COPD ガイドライン第5版作成委員会(編). 東京:メディカルレビュー社;2018. 責任編  
集委員
- ・ **喘息予防・管理ガイドライン 2018**. 一般社団法人日本アレルギー学会喘息ガイドライン専  
門部会(監修),「喘息予防・管理ガイドライン 2018」作成委員(作成).東京:協和企画;  
2018. 一般社団法人日本アレルギー学会喘息ガイドライン専門部会
- ・ **肺生理専門委員会呼気一酸化窒素(NO)測定ハンドブック**. 呼気一酸化窒素(NO)測定  
ハンドブック作成委員会, 日本呼吸器学会肺生理専門委員会(編). 東京:メディカルレビ  
ュー社;2018. 作成委員会委員長, 日本呼吸器学会肺生理専門委員会委員長
- ・ **喘息とCOPDのオーバーラップ診断と治療の手引き 2018**. 一般社団法人日本呼吸器学  
会喘息とCOPDのオーバーラップ(Asthma and COPD Overlap:ACO)診断と治療の手引  
き 2018 作成委員会(編). 東京:メディカルレビュー社;2018. 責任編集委員

## 学術受賞

1994年	日本胸部疾患学会(現日本呼吸器学会) 奨励賞
1996年	アレルギー協会 アレルギー学術奨励賞
1998年	日本呼吸器学会 熊谷賞
2002年	東北大学医学部奨学賞 金賞

---

## <大学運営に関する情報>

### 学内委員

・ 臨床研究推進センター運営会議委員	2012年5月～2017年3月
・ 肺移植適応検討委員会	2012年5月～2020年3月
・ 病床管理委員会	2012年5月～2020年3月
・ 企画室員	2012年5月～2015年3月
・ 医学科運営委員会	2012年5月～2019年3月
・ 兼業に関する審査委員会	2012年5月～2017年3月
・ 東北大学病院初期臨床研修管理委員会	2013年3月～2020年3月
・ 学術情報資料選定小委員会	2013年4月～2016年3月
・ クリニカルスキルスラボ運営委員会	2013年4月～2014年3月

・ 院内講師選考委員会	2013年4月～2018年3月
・ 生理検査センター運営委員会	2013年4月～2018年3月
・ 研修管理委員会	2013年4月～2018年3月
・ 医療安全推進委員会	2013年4月～2018年3月
・ 病床管理委員会	2013年4月～2018年3月
・ 評価室員	2013年4月～2018年3月 2019年4月～2020年3月
・ 附属図書館商議会	2014年4月～2018年3月
・ 図書館本館学生用図書選書委員会	2014年4月～2017年3月
・ 緩和医療部運営委員会	2014年4月～2018年3月
・ 東北大学病院臨床研究財務審査委員会	2015年2月～2020年3月
・ メディカル IT センター運営委員会	2015年4月～2018年3月
・ 呼吸器センター運営委員会	2015年4月～2020年3月
・ 医学分館運営委員会	2016年4月～2018年3月
・ 研究科運営委員会	2016年4月～2017年3月
・ 新設医学部連携室	2016年4月～2019年3月
・ 東北大学病院個別化医療センター運営会議委員	2017年4月～2020年3月
・ 医学部認証評価ワーキンググループ	2018年4月～2019年3月
・ 東北大学医学部プログラム評価委員会	2019年4月～2020年3月

---

#### <社会活動に関する情報>

##### 行政機関等参加

・ 医薬品医療機器総合機構専門委員	2015年～
・ 国立大学教育研究評価委員会専門委員	2016年～2017年

---

## 業績リスト

---

### I 著書・編書

#### I – i 英文著書

##### 1990 年

1. Ichinose M, Takishima T, Barnes PJ. Histamine H3-receptors: function in airways. Kobayashi S, Bellanti JA, editors. *Advances in asthmology 1990*. Excerpta Medica, New York, 1991; p349-p354
2. Yamada N, Inoue H, Aratani H, Ichinose M. Bronchoconstriction after oral allergen challenge in sensitized guinea pigs. Kobayashi S, Bellanti JA, editors. *Advances in asthmology 1990*. Excerpta Medica, New York, 1991; p457-p460

##### 2000 年

3. Koarai A, Ichinose M, Ishigaki S, Yamagata S, Sugiura H, Sakurai E, Kuramasu A, Watanabe T, Hattori T, Shirato K, Ohtsu H. Endogenous histamine and allergic eosinophil infiltration into the airways. Watanabe T, Timmerman H, Yanai K, editors. *Histamine research in the new millennium*. Excerpta Medica, New York, 2001; p325-p328

##### 2001 年

4. Kimura K, Ichinose M, Hayashi M, Tamura G, Hattori T, Shirato K. Effects of a selective H1-receptor antagonist, epinastine, on airway inflammation in asthmatics. Watanabe T, Timmerman H, Yanai K, editors. *Histamine research in the new millennium*. Excerpta Medica, New York, 2001; p349-p354

##### 2003 年

5. Ichinose M. Antiallergic drugs. Spina D, Page CP, Metzger WJ, O'Connor BJ editors. *Drugs for the treatment of respiratory diseases*. Cambridge University Press, Cambridge, 2003; p119-p123

##### 2012 年

6. Sugiura H, Ichinose M. Respiratory system. Nitric Oxide Synthase Inhibitors: From Animal Studies to Clinical Implications. Transworld Research Network. India, 2012; 137-150

##### 2017 年

7. Tamada T, Ichinose M. Leukotriene Receptor Antagonists and Antiallergy Drugs. *Handb Exp Pharmacol*. 2017; 237: 153-169

#### I – ii 和文著書

##### 1994 年

1. 一ノ瀬正和、井上洋西、ニューロキニン A. 小倉 剛、日和田邦男、山木戸道郎 編、KEY WORD 呼吸器系 1994-1995. 先端医学社、東京、1994、p126-p127
2. 一ノ瀬正和、細菌・ウイルス感染による気道反応性の亢進. 原沢道美、北村 諭 編、呼吸器疾患: state of arts 1995-1998. 医歯薬出版、東京、1994、p38-p40

##### 1995 年

3. 一ノ瀬正和、ヒスタミン受容体. 太田保世 編、Annual Review 呼吸器 1995. 中外医学社、東京、1994、p87-p94
4. 一ノ瀬正和、気道の収縮と拡張. 市村登寿 編、小児アレルギー疾患研究の進歩. ライフサイエンス、東京、1995、p60-p64

5. 一ノ瀬正和、喘息とNO. 富岡久夫 ら編、気道アレルギー'95. メディカルレビュー社、東京、1995、p33-p40

#### 1996年

6. 一ノ瀬正和、気管支喘息の特徴である気道過敏性の機序と測定法. アレルギー疾患 Q&A. 医薬ジャーナル社、東京、1996、p63-p64
7. 一ノ瀬正和、高張食塩水誘発痰中サブスタンスP含量と気道疾患. 宮本昭正 編、Asthma-an Inflammatory Diseases vol. 3: Diagnosis and Management. Excerpta Medica、東京、1996、p11-p13

#### 1997年

8. 一ノ瀬正和、白土邦男、気道炎症と NO. 井村裕夫 ら編、最新内科学大系: プログレス 4 免疫・アレルギー. 中山書店、東京、1997、45: 463-483
9. 一ノ瀬正和、神経ペプチドと喘息. 宮本昭正 編、Asthma-an Inflammatory Diseases vol. 4: Pathogenesis and Perspective. Excerpta Medica、東京、1997、p93-p97

#### 1998年

10. 一ノ瀬正和、神経. 中嶋重徳、宮本昭正、小林節雄 編、メディエーター. ライフサイエンス出版、東京、1998、p44-p54

#### 1999年

11. 一ノ瀬正和、白土邦男、気道過敏性の成立機序. 中川武正、秋山一男 編、プラクティス内科シリーズ 5: 気管支喘息. 南江堂、東京、1999、p183-p187
12. 杉浦久敏、一ノ瀬正和、白土邦男、気道炎症と NO. 工藤翔二 等編、Annual Review 呼吸器 1999. 中外医学社、東京、1999、p48-p56
13. 井上洋西、田村 弦、一ノ瀬正和、三浦一樹、荏原順一、瀧島 任、地域における喘息患者 QOL の実態調査: 抗ロイコトリエン剤の効果とその特徴. 荏原順一 編、ロイコトリエンと気管支喘息・アレルギー. 医薬ジャーナル社、東京、1999、p90-p103

#### 2000年

14. 山縣俊介、一ノ瀬正和、生体内 NO 測定法の応用: 呼気ガス分析法. 吉村哲彦 編、生体内一酸化窒素(NO)実験プロトコール. 共立出版、東京、2000、p252-p257
15. 一ノ瀬正和、使い方によって効く抗コリン薬. 足立 満 他編、症例に学ぶ気管支喘息治療. Medical View、東京、2000、p73

#### 2001年

16. 一ノ瀬正和、COPD. 酒井 紀 等監修、認定医・専門医のための内科学レビュー. 総合医学社、東京、2001、p7-p11
17. 一ノ瀬正和、難治性喘息. 泉 孝英 編、最新医学・別冊 新しい診断と治療の ABC: 2 喘息. 最新医学社、大阪、2001、p207-p213
18. 福田 健、一ノ瀬正和、森 晶夫、泉 孝英、喘息-21 世紀の課題. 泉 孝英 編、最新医学・別冊 新しい診断と治療の ABC: 2 喘息. 最新医学社、大阪、2001、p261-p274
19. 戸蒔雅文、一ノ瀬正和、TXA2 拮抗薬の特徴と適応の基本. 飯倉洋治 等編、気管支喘息治療のストラテジー: 治療の実際. 先端医学社、東京、2001、p134-p138

#### 2003年

20. 奈良正之、一ノ瀬正和、ムスカリン受容体. 工藤翔二 等編、Annual Review 呼吸器 2003. 中外医学社、東京、2003、p16-p23



21. 高橋識至、一ノ瀬正和、ロイコトリエン受容体拮抗薬と QOL. 足立 満 編、ロイコトリエン受容体拮抗薬のすべて. 先端医学社、東京、2003; p162-p165
22. 小川浩正、一ノ瀬正和、COPD を見逃さないために. 福地義之助 編、呼吸器診療二項の秘訣. 金原出版、東京、2003、p158-p159

#### 2005 年

23. 一ノ瀬正和、COPD 診療マニュアル-病態理解から薬物療法・管理まで-. 南江堂、2005、p1-p150
24. 一ノ瀬正和、COPD の概略. 一ノ瀬正和 編、COPD 診療マニュアル. 南江堂、2005、p1-p6
25. 一ノ瀬正和、診断の手順. 一ノ瀬正和 編、COPD 診療マニュアル. 南江堂、2005、p7-p9
26. 一ノ瀬正和、薬物療法の基本とコツ. 一ノ瀬正和 編、COPD 診療マニュアル. 南江堂、2005、p35-p39
27. 山縣俊之、一ノ瀬正和、抗コリン薬. 一ノ瀬正和 編、COPD 診療マニュアル. 南江堂、2005、p40-p48
28. 松永和人、一ノ瀬正和、 $\beta_2$  刺激薬. 一ノ瀬正和 編、COPD 診療マニュアル. 南江堂、2005、p49-p56
29. 南方良章、一ノ瀬正和、テオフィリン薬. 一ノ瀬正和 編、COPD 診療マニュアル. 南江堂、2005、p57-p62
30. 山縣俊之、一ノ瀬正和、併用療法. 一ノ瀬正和 編、COPD 診療マニュアル. 南江堂、2005、p63-p67
31. 戸蒔雅文、一ノ瀬正和、吸入ステロイド薬. 一ノ瀬正和 編、COPD 診療マニュアル. 南江堂、2005、p71-p77
32. 山縣俊之、一ノ瀬正和、増悪期の病態把握のコツ. 一ノ瀬正和 編、COPD 診療マニュアル. 南江堂、2005、p79-p83
33. 戸蒔雅文、一ノ瀬正和、増悪期の管理の実際. 一ノ瀬正和 編、COPD 診療マニュアル. 南江堂、2005、p84-p93
34. 山縣俊之、一ノ瀬正和、COPD に使用される主な薬剤一覧表. 一ノ瀬正和 編、COPD 診療マニュアル. 南江堂、2005、p133-p135
35. 一ノ瀬正和、慢性閉塞性肺疾患(肺気腫症/慢性気管支炎). 山口 徹, 北原光夫 総編集、今日の治療指針 2005. 医学書院、2005、p206-p207
36. 一ノ瀬正和、COPD(慢性閉塞性肺疾患)診断と治療のためのガイドライン. 山口 徹, 北原光夫, 福井次矢 総編集、今日の治療指針 2005. 医学書院、2005、p1513-p1517
37. 平野綱彦、山縣俊之、一ノ瀬正和、呼気凝縮液による病態解明. 工藤翔二, 土屋了介, 金沢 実, 大田 健 編、Annual Review 呼吸 2005. 中外医学社、2005、p85-p91
38. 山縣俊之、一ノ瀬正和、テオフィリンの臨床効果(COPD). 宮本昭正, 眞野健次監修、喘息治療におけるテオフィリン薬. メディカルレビュー社、2005、p263-p277
39. 南方良章、一ノ瀬正和、気管支拡張薬 (2)  $\beta_2$  刺激薬. 長瀬隆英, 大石展也 編、呼吸器疾患治療のエビデンス. 文光堂、2005、p3-5

40. 南方良章、一ノ瀬正和、気管支拡張薬 (3) キサンチン薬. 長瀬隆英, 大石展也 編、呼吸器疾患治療のエビデンス. 文光堂、2005、p6-p7

#### 2006年

41. 平野綱彦、一ノ瀬正和、抗コリン薬の種類・使用法. 福地義之助 編、高齢者診療のツボ COPD. 日本医事新報社、2006、p66-p72
42. 松永和人、一ノ瀬正和、 $\beta_2$  刺激薬の種類・使用法. 福地義之助 編、高齢者診療のツボ COPD. 日本医事新報社、2006、p73-p77
43. 南方良章、一ノ瀬正和、テオフィリンの使用法. 福地義之助 編、高齢者診療のツボ COPD. 日本医事新報社、2006、p78-p82
44. 松永和人、一ノ瀬正和、ステロイドの使用法(吸入・経口). 福地義之助 編、高齢者診療のツボ COPD. 日本医事新報社、2006、p83-p87
45. 南方良章、一ノ瀬正和、粘液調整(去痰)薬の使用法. 福地義之助 編、高齢者診療のツボ COPD. 医事新報社、2006、p88-p90
46. 山縣俊之、一ノ瀬正和、PDE4 阻害薬など. 福地義之助 編、高齢者診療のツボ COPD. 医事新報社、2006、p91-p93
47. 山縣俊之、一ノ瀬正和、ステージ別の治療と管理. 福地義之助 編、高齢者診療のツボ COPD. 医事新報社、2006、p102-p105
48. 山縣俊之、一ノ瀬正和、選択基準, 薬剤の変更パターン. 福地義之助 編、高齢者診療のツボ COPD. 医事新報社、2006、p106-p108
49. 相澤久道、一ノ瀬正和、呼吸器疾患の展望 基礎から臨床まで. 医学書院、2006、p1-p232
50. 一ノ瀬正和、山縣俊之、気道炎症評価法-呼気ガス, 呼気凝縮液, 喀痰. 相澤久道, 一ノ瀬正和 編、呼吸器疾患の展望 基礎から臨床まで. 医学書院、2006、p202-p213
51. 山縣俊之、一ノ瀬正和、気管支喘息. 長瀬隆英, 永田泰自 編著、図解 呼吸器内科学テキスト. 中外医学社、2006、p149-p152

#### 2007年

52. 南方良章、一ノ瀬正和、COPD の病態. 工藤翔二, 土屋了介, 金沢 実, 大田 健 編集、Annual Review 呼吸器. 中外医学社、2007、p87-p97
53. 一ノ瀬正和、COPD(慢性閉塞性肺疾患)診断と治療のためのガイドライン(第2版)の概略. 日野原重明, 高久史麿, 黒川 清 編集、PTM 治療マニュアル ガイドラインダイジェスト. NIHON MEDIS、2007
54. 大田 健、一ノ瀬正和、呼吸器 common disease の診療 気管支喘息のすべて. 文光堂、2007、p1-p394
55. 山縣俊之、一ノ瀬正和、II. 喘息の診断の進め方, [B]診断につながる臨床検査所見, 3. 気道炎症の非侵襲的評価法をめぐる最近の動向. 大田 健, 一ノ瀬正和 編、呼吸器 common disease の診療 気管支喘息のすべて. 文光堂、2007、p148-p151
56. 山縣俊之、一ノ瀬正和、1 章 呼吸器疾患, 気管支拡張症. 大田 健, 奈良信雄 編、今日の診断基準. 南江堂、2007、p19
57. 山縣俊之、一ノ瀬正和、1 章 呼吸器疾患, 嚢胞性線維症. 大田 健, 奈良信雄編、今日の診断基準. 南江堂、2007、p20

58. 山縣俊之、一ノ瀬正和、1 章 呼吸器疾患, Kartagener 症候群. 大田 健, 奈良信雄 編、今日の診断基準. 南江堂、2007、p115
59. 山縣俊之、一ノ瀬正和、1 章 呼吸器疾患, immotile-cilia 症候群. 大田 健, 奈良信雄 編、今日の診断基準. 南江堂、2007、p119
60. 上嶋千史、南方良章、一ノ瀬正和、第 3 章 呼吸リハビリテーションに必要なアセスメント、換気機能. 塩谷隆信 編、包括的呼吸リハビリテーション I 基本編. 新興医学出版社、2007、p153-p158
61. 一ノ瀬正和、放射線肺臓炎・放射線肺線維症. 杉本恒明, 矢崎義雄 総編集、内科学. 朝倉書店、2007、p717-p718
62. 一ノ瀬正和、薬物性肺臓炎. 杉本恒明, 矢崎義雄 総編集、内科学. 朝倉書店、2007、p718-p720
63. 一ノ瀬正和、ガス・粉じんによる肺疾患. 杉本恒明, 矢崎義雄 総編集、内科学. 朝倉書店、2007、p720-p723
64. 市川朋宏、一ノ瀬正和、気管支拡張薬の最近の進歩. 工藤翔二, 中田紘一郎, 貫和敏博 編集、呼吸器疾患最新の治療 2007-2009、南江堂、2007、p12-p17
65. 松永和人、一ノ瀬正和、喘息治療の考え方 どんな薬物で治療するか? 2. 発作治療薬(リリーバー). 工藤翔二 監修, 大田 健, 一ノ瀬正和 編集、呼吸器 common disease の診療 気管支喘息のすべて. 文光堂、2007、p268-p273
66. 松永和人、一ノ瀬正和、喘息治療の考え方 発作時(急性増悪時)の治療指針 1. 発作強度と薬物療法の実際 成人の場合. 工藤翔二 監修, 大田 健, 一ノ瀬正和 編集、呼吸器 common disease の診療 気管支喘息のすべて. 文光堂、2007、p287-p291
67. 一ノ瀬正和、今日における喘息の定義. 工藤翔二 監修, 大田 健, 一ノ瀬正和 編集、呼吸器 common disease の診療 気管支喘息のすべて. 文光堂、2007、p16-p19
68. 一ノ瀬正和、呼吸機能からみた特徴. 工藤翔二 監修, 大田 健, 一ノ瀬正和 編集、呼吸器 common disease の診療 気管支喘息のすべて. 文光堂、2007、p20-p23
69. 一ノ瀬正和、気道内径の調節機構. 工藤翔二 監修, 大田 健, 一ノ瀬正和 編集、呼吸器 common disease の診療 気管支喘息のすべて. 文光堂、2007、p24-p25
70. 一ノ瀬正和、喫煙と薬物反応. 工藤翔二 監修, 大田 健, 一ノ瀬正和 編集、呼吸器 common disease の診療 気管支喘息のすべて. 文光堂、2007、p60-p61
71. 一ノ瀬正和、NO の病態での位置づけ. 工藤翔二 監修, 大田 健, 一ノ瀬正和 編集、呼吸器 common disease の診療 気管支喘息のすべて. 文光堂、2007、p152-p153
72. 一ノ瀬正和、抗コリン薬の使用意義. 工藤翔二 監修, 大田 健, 一ノ瀬正和 編集、呼吸器 common disease の診療 気管支喘息のすべて. 文光堂、2007、p274-p275
73. 一ノ瀬正和、長時間作用型  $\beta_2$  刺激薬(LABA)とステロイド薬の合剤. 工藤翔二 監修, 大田 健, 一ノ瀬正和 編集、呼吸器 common disease の診療 気管支喘息のすべて. 文光堂、2007、p308-p311
74. 山縣俊之、一ノ瀬正和、慢性閉塞性肺疾患. 永井厚志, 吉澤靖之, 大田 健, 江口研二 編、EBM 呼吸器疾患の治療 2008-2009. 中外医学社、2007、p285-p291
75. 松永和人、一ノ瀬正和、高齢者における気管支喘息と COPD の臨床上的問題点・留意点.

相澤久道 監修、気管支喘息と COPD の類似点・相違点. メディカルレビュー社、2007、p98-p108

#### 2008 年

76. 一ノ瀬正和、気道の反応性との関係. 宮本昭正, 小林節雄, 中島重徳 編、喘息の増悪化とその対応. ライフサイエンス出版、2008、p45-p52
77. 一ノ瀬正和、薬物療法. 江藤文夫, 上月正博, 植木 純, 牧田 茂 編集、呼吸・循環障害のリハビリテーション. 医歯薬出版、2008、p76-p79
78. 平野綱彦, 一ノ瀬正和、COPD の病因と病態. 桑平一郎 編著、COPD ハンドブック. 中外医学社、2008、p8-p15
79. 工藤翔二, 永井厚志, 一ノ瀬正和 編集、呼吸器 common disease の診療 COPD のすべて. 文光堂、2008、p1-p335
80. 一ノ瀬正和、今日の COPD の定義. 工藤翔二 監修, 永井厚志, 一ノ瀬正和 編集、呼吸器 common disease の診療 COPD のすべて. 文光堂、2008、p6-p8
81. 一ノ瀬正和、COPD 発症と炎症. 工藤翔二 監修, 永井厚志, 一ノ瀬正和 編集、呼吸器 common disease の診療 COPD のすべて. 文光堂、2008、p40-p43
82. 一ノ瀬正和、COPD と喘息の合併. 工藤翔二 監修, 永井厚志, 一ノ瀬正和 編集、呼吸器 common disease の診療 COPD のすべて. 文光堂、2008、p92-p93
83. 一ノ瀬正和、増悪の減少. 工藤翔二 監修, 永井厚志, 一ノ瀬正和 編集、呼吸器 common disease の診療 COPD のすべて. 文光堂、2008、p173-p174
84. 柳澤 悟, 一ノ瀬正和、COPD 患者の死亡を取り巻く状況. 工藤翔二 監修, 永井厚志, 一ノ瀬正和 編集、呼吸器 common disease の診療 COPD のすべて. 文光堂、2008、p175-p177
85. 一ノ瀬正和、安定期 COPD の薬物療法の原則. 工藤翔二 監修, 永井厚志, 一ノ瀬正和 編集、呼吸器 common disease の診療 COPD のすべて. 文光堂、2008、p185-p187
86. 小荒井晃, 一ノ瀬正和、長時間作用型抗コリン薬. 工藤翔二 監修, 永井厚志, 一ノ瀬正和 編集、呼吸器 common disease の診療 COPD のすべて. 文光堂、2008、p195-p199
87. 杉浦久敏, 一ノ瀬正和、テオフィリン薬. 工藤翔二 監修, 永井厚志, 一ノ瀬正和 編集、呼吸器 common disease の診療 COPD のすべて. 文光堂、2008、p204-p205
88. 杉浦久敏, 一ノ瀬正和、COPD の新しい治療薬の展望. 工藤翔二 監修, 永井厚志, 一ノ瀬正和 編集、呼吸器 common disease の診療 COPD のすべて. 文光堂、2008、p209-p211
89. 市川朋宏, 一ノ瀬正和、吸入ステロイド. 工藤翔二 監修, 永井厚志, 一ノ瀬正和 編集、呼吸器 common disease の診療 COPD のすべて. 文光堂、2008、p214-p217
90. 市川朋宏, 一ノ瀬正和、LABA との配合剤. 工藤翔二 監修, 永井厚志, 一ノ瀬正和 編集、呼吸器 common disease の診療 COPD のすべて. 文光堂、2008、p218-p219
91. 杉浦久敏, 一ノ瀬正和、活性窒素と炎症性呼吸器疾患. 工藤翔二, 土屋了介, 金澤 実, 大田 健 編集、Annual Review 呼吸器. 中外医学社、2008、p17-p25
92. 小川浩正, 一ノ瀬正和、COPD の呼吸困難感とエアートラッピング. 工藤翔二, 土屋了介, 金澤 実, 大田 健 編集、Annual Review 呼吸器. 中外医学社、2008、p70-p82

93. 一ノ瀬正和、気道過敏性検査. 工藤翔二 監修, 相澤久道, 大田 健, 川崎一輝, 弦間昭彦, 酒井文和, 中田紘一郎, 永武 毅, 貫和敏博 編集, 呼吸器疾患診療マニュアル. 日本医師会、2008、p138-p139
94. 杉浦久敏、一ノ瀬正和、最近話題の特殊検査. 工藤翔二 監修, 相澤久道, 大田 健, 川崎一輝, 弦間昭彦, 酒井文和, 中田紘一郎, 永武 毅, 貫和敏博 編集, 呼吸器疾患診療マニュアル. 日本医師会、2008、p160-p161
95. 市川朋宏、一ノ瀬正和、COPD. 高橋敬治監修, 薬物吸入療法研究会編集, 21 世紀の吸入療法. 仙台気道研究所、2008、p163-p175
96. 一ノ瀬正和、気道過敏性の構成要素. 工藤翔二, 土屋了介, 金沢 実, 大田 健 編集, Annual Review 呼吸器. 中外医学社、2008、p77-p83

#### 2009 年

97. 一ノ瀬正和、バイオマーカー. 森川昭廣, 足立 満, 秋山一男, 大田 健, 東田有智 編集, 難治性喘息をめぐる. ライフサイエンス出版、2009、p44-p49
98. 松永和人、一ノ瀬正和、喘息治療管理のモニタリング法の今後の見通しは? EBM アレルギー疾患の治療 2010-2011. 中外医学社 2009、p69-p73

#### 2010 年

99. 一ノ瀬正和、喘息・COPD の合併の実態とその鑑別—バイオマーカーを中心として. 足立満, 森川昭廣, 秋山一男, 大田健, 東田有智 編集, 喘息の診断と治療における問題点 ライフサイエンス出版、2010、p151-p155
100. 一ノ瀬正和、薬物によるコントロールについて. 滝澤 始 編集, 気管支喘息、2010、p43-p49
101. 柳澤 悟、一ノ瀬正和、慢性呼吸不全. 松田 暉, 荻原俊男, 難波光義, 鈴木久美, 林 直子 編集, 疾病と治療I、2010、p36-p38

#### 2011 年

102. 高橋敬治、長瀬隆英、西村正治、一ノ瀬正和、足立 満、石岡伸一、三島理晃、工藤翔二、西村浩一、相澤久道、栗山喬之、永井厚志 監修. 福地義之助 著書 総監修, COPD 病態解明と治療の進歩 Chapter4 COPD における臨床薬理I-長時間作用性抗コリン薬-. アルタ出版 2011、p63-p77
103. 一ノ瀬正和、気管支喘息の気道炎症・リモデリングに関するバイオマーカーを検討する. 大田健 編集、～抗体治療時代の～気管支喘息治療の新たなストラテジー. 先端医学社、2011、p59-p66
104. 一ノ瀬正和、開発中の COPD 治療薬. The LUNG Perspective、2011; 19: p126-p132
105. 南方良章、一ノ瀬正和、COPD に対する新規  $\beta_2$  刺激薬治療. 永井厚志, 巽浩一郎, 桑野和善, 高橋和久 編集、Annual Review 呼吸器. 中外医学社、2012、p175-p182
106. 一ノ瀬正和、喘息診断のポイントとコツ. Medical Practice 29、文光堂、2012、p580-p584
107. 一ノ瀬正和、呼吸障害の病態と診断. 新呼吸療法テキスト、アトムス、2012、p90-p93
108. 一ノ瀬正和、各種病態に対する呼吸管理法. 新吸療法テキスト、アトムス、2012、p252-p256

#### 2014 年

109. 小荒井晃、一ノ瀬正和、気管支喘息における新規生物学的製剤開発の可能性を探る;ケモカイン受容体(CCR3,CCR4,CXCR2). *Respiratory Medical Research* 2014; 2: p33-p37
110. 杉浦久敏、一ノ瀬正和、【COPD 著しく進歩したこれからの実地診療の実際】 COPD とはどんな病気か? 新しい COPD ガイドライン(2013)より 実地医家の具体的な治療と管理実践指針. *Medical Practice* 2014; 31: p536-p544
111. 玉田 勉、一ノ瀬正和、呼吸器疾患の新治療「レルベア」. *呼吸* 2014; 33: p270-p277.
112. 玉田 勉、一ノ瀬正和、プライマリケア医が習熟すべき COPD の治療 COPD の治療～進化する薬物治療～. *MEDICAMENT NEWS* 2014年5月5日号 ライフサイエンス
113. 山田充啓・一ノ瀬正和、呼吸器疾患におけるエクソソーム. *Bio Clinica* 2014; 29.
114. 田畑 雅央、一ノ瀬正和、スパイロメトリー・フローボリューム曲線. *呼吸*、2014; 33: p998-p1005
- 2015年**
115. 岡崎 達馬、一ノ瀬正和、誤嚥性肺炎の治療—内科の立場から—. *ENTONI* 2015; 175: p31-p37.
- 2017年**
116. 平野泰三、一ノ瀬正和、CHAPTER9 アレルギー・膠原病系症状と検査異常 好酸球増加症. *内科外来診断 navi*、中外医学社、2017;335-336
- 2018年**
117. 一ノ瀬正和、慢性閉塞性肺疾患(COPD)の先制医療. *診断と治療*、第106巻第1号、診断と治療社、2018、p84-p89
118. 一ノ瀬正和、喘息 第1章 概念・定義と疫学 疾患概念・定義. *最新醫學別冊 診断と治療のABC* 135、最新医学社、2018、p16-p24
119. 一ノ瀬正和、COPD(慢性閉塞性肺疾患)診断と治療のためのガイドライン 2018のポイント. *日本薬剤師会雑誌*、第70巻第10号、2018、p11-13

Ⅱ 論文等  
Ⅱ - i 英文原著

1985 年

1. Ishii M, Matsumoto N, Fuyuki T, Hida W, Ichinose M, Inoue H, Takishima T. Effects of hemodynamic edema formation on peripheral vs central airway mechanics. *J Appl Physiol* 1985; 59: 1578-1584
2. Matsumoto N, Inoue H, Ichinose M, Ishii M, Inoue C, Sasaki H, Takishima T. Effective sites by sympathetic beta-adrenergic and vagal nonadrenergic inhibitory stimulation constricted airways. *Am Rev Respir Dis* 1985; 132: 1113-1117
3. Liu YN, Sasaki H, Ishii M, Sekizawa K, Hida W, Ichinose M, Takishima T. Effect of circadian rhythm on bronchomotor tone after deep inspiration in normal and in asthmatic subjects. *Am Rev Respir Dis* 1985; 132: 278-282
4. Hida W, Sakurai M, Ichinose M, Shindoh C, Chonan T, Kikuchi Y, Inoue H, Takishima T. Effect of clenbuterol on peripheral airway obstruction in bronchial asthma. *Curr Med Res Opin* 1985; 9: 616-625

1986 年

5. Inoue H, Horio S, Ichinose M, Ida S, Hida W, Takishima T, Ohwada K, Honma M. Changes in bronchial reactivity to acetylcholine with type C influenza virus infection in dogs. *Am Rev Respir Dis* 1986; 133: 367-371

1987 年

6. Ichinose M, Inoue H, Miura M, Yafuso N, Nogami H, Takishima T. Possible sensory receptor of nonadrenergic inhibitory nervous system. *J Appl Physiol* 1987; 63: 923-929

1988 年

7. Ichinose M, Inoue H, Miura M, Takishima T. Nonadrenergic bronchodilation in normal subjects. *Am Rev Respir Dis* 1988; 138: 31-34.
8. Miura M, Inoue H, Ichinose M, Shimura S, Takishima T. Distribution of  $\alpha$ -adrenergic bronchoconstriction in feline airways. *Pulm Pharm* 1988; 1: 63-68

1989 年

9. Belvisi MG, Ichinose M, Barnes PJ. Modulation of non-cholinergic neural bronchoconstriction guinea-pig airways via GABAB-receptors. *Br J Pharmacol* 1989; 97: 1225-1231
10. Ichinose M, Stretton CD, Schwartz JC, Barnes PJ. Histamine H<sub>3</sub>-receptors inhibit cholinergic neurotransmission in guinea-pig airways. *Br J Pharmacol* 1989; 97: 13-15
11. Ichinose M, Barnes PJ. Inhibitory histamine H<sub>3</sub>-receptors on cholinergic nerves in human airways. *Eur J Pharmacol* 1989; 163: 383-386
12. Ichinose M, Barnes PJ. Histamine H<sub>3</sub>-receptors modulate nonadrenergic noncholinergic neural bronchoconstriction in guinea-pig in vivo. *Eur J Pharmacol* 1989; 174: 49-55
13. Nishimura Y, Hida W, Taguchi O, Sakurai M, Ichinose M, Inoue H, Takishima T. Respiratory muscle strength and gas exchange in neuromuscular diseases: comparison with chronic pulmonary emphysema and idiopathic pulmonary fibrosis. *Tohoku J Exp Med* 1989; 159: 57-68
14. Inoue H, Ichinose M, Miura M, Katsumata U, Takishima T. Sensory receptors and reflex

pathways of nonadrenergic inhibitory nervous system in feline airways. *Am Rev Respir Dis* 1989; 139: 1175-1178

15. Miura M, Inoue H, Ichinose M, Shimura S, Kimura K, Shindoh Y, Tanno Y, Takishima T. Increase in luminal mast cell and epithelial damage may account for increased airway responsiveness after viral infection in dogs. *Am Rev Respir Dis* 1989; 140: 1738-1744
16. Ishii M, Hida W, Suzuki S, Ichinose M, Sasaki H, Takishima T. Comparison of intermittent and continuous inhalation provocation tests. *Annals Allergy* 1989; 62: 223-228

#### 1990 年

17. Ichinose M, Barnes PJ. Histamine H<sub>3</sub>-receptors modulate antigen-induced bronchoconstriction in guinea pigs. *J Allergy Clin Immunol* 1990; 86: 491-495
18. Ichinose M, Barnes PJ. A potassium channel activator modulates both excitatory noncholinergic and cholinergic neurotransmission in guinea pig airways. *J Pharmacol Exp Ther* 1990; 252: 1207-1212
19. Ichinose M, Barnes PJ. Bradykinin-induced airway microvascular leakage and bronchoconstriction mediated via a bradykinin B<sub>2</sub> receptor. *Am Rev Respir Dis* 1990; 142: 1104-1107
20. Ichinose M, Belvisi MG, Barnes PJ. Bradykinin-induced bronchoconstriction in guinea pig in vivo: role of neural mechanisms. *J Pharmacol Exp Ther* 1990; 253: 594-599
21. Ichinose M, Barnes PJ. The effect of peptidase inhibitors on bradykinin-induced bronchoconstriction in guinea-pigs in vivo. *Br J Pharmacol* 1990; 101: 77-80
22. Ichinose M, Belvisi MG, Barnes PJ. Histamine H<sub>3</sub>-receptors inhibit neurogenic microvascular leakage in airways. *J Appl Physiol* 1990; 68: 21-25
23. Katsumata U, Miura M, Ichinose M, Kimura K, Takahashi T, Inoue H, Takishima T. Oxygen radicals produce airway constriction and hyperresponsiveness in anesthetized cats. *Am Rev Respir Dis* 1990; 141: 1158-1161
24. Miura M, Inoue H, Ichinose M, Kimura K, Katsumata U, Takishima T. Effect of nonadrenergic noncholinergic inhibitory nerve stimulation on the allergic reaction in cat airways. *Am Rev Respir Dis* 1990; 141: 29-32

#### 1991 年

25. Inoue H, Ichinose M, Miura M, Iijima H, Kimura K, Katsumata U, Hataoka I, Okada S, Asano M, Takishima T. Nonadrenergic inhibitory nervous systems in the airways. *Am Rev Respir Dis* 1991; 143: S15-S17

#### 1992 年

26. Kimura K, Inoue H, Ichinose M, Miura M, Katsumata U, Takahashi T, Takishima T. Bradykinin causes airway hyperresponsiveness and enhances maximal airway narrowing: role of microvascular leakage and airway edema. *Am Rev Respir Dis* 1992; 146: 1301-1305
27. Ichinose M, Nakajima N, Takahashi T, Yamauchi H, Inoue H, Takishima T. Protection against bradykinin-induced bronchoconstriction in asthmatic patients by neurokinin receptor antagonist. *Lancet* 1992; 340: 1248-1251
28. Miura M, Ichinose M, Kimura K, Katsumata U, Takahashi T, Inoue H, Takishima T. Dysfunction of nonadrenergic noncholinergic inhibitory system after antigen inhalation in actively sensitized cat airways. *Am rev Respir Dis* 1992; 145: 70-74



### 1993 年

29. Ichinose M, Kimura K, Takahashi T, Miura M, Inoue H, Takishima T, Shirato K. Antiasthma drug, ibudilast, inhibits neurogenic plasma extravasation in guinea-pig airways. *Am Rev Respir Dis* 1993; 148: 431-434
30. Takahashi T, Ichinose M, Yamauchi H, Miura M, Nakajima N, Ishikawa J, Inoue H, Takishima T, Shirato K. Neuropeptide Y inhibits neurogenic inflammation in guinea pig airways. *J Appl Physiol* 1993; 75: 103-107
31. Takahashi T, Miura M, Katsumata U, Ichinose M, Kimura K, Inoue H, Takishima T, Shirato K. Involvement of superoxide in ozone-induced airway hyperresponsiveness in anesthetized cats. *Am Rev Respir Dis* 1993; 148: 103-106
32. Izumiyama T, Hida W, Ichinose M, Inoue H, Takishima T, Okazaki T, Shirato K. Small airway involvement in mixed connective tissue disease. *Tohoku J Exp Med* 1993; 170: 273-283
33. Yamada N, Inoue H, Aratani H, Ichinose M, Takishima T. Mechanisms of bronchoconstriction after allergen ingestion in sensitized guinea pigs. *Int Arch Allergy Immunol* 1993; 102: 295-300

### 1994 年

34. Asano M, Inoue H, Ichinose M, Okada S, Takishima T. Possible mechanisms of airway hyperresponsiveness after late asthmatic response in guinea pigs. *Int Arch Allergy Immunol* 1994; 103: 88-94
35. Nakajima N, Ichinose M, Takahashi T, Yamauchi H, Igarashi A, Miura M, Inoue H, Takishima T, Shirato K. Bradykinin-induced airway inflammation: contribution of sensory neuropeptides differs according to airway site. *Am J Respir Crit Care Med* 1994; 149: 694-698
36. Yamauchi H, Miura M, Ichinose M, Ishikawa J, Nakajima N, Tomaki M, Inoue H, Maeyama K, Watanabe T, Shirato K. Involvement of apamin-sensitive K<sup>+</sup> channels in antigen-induced spasm of guinea-pig isolated trachea. *Br J Pharmacol* 1994; 112: 958-962
37. Ichinose M, Miura M, Takahashi T, Yamauchi H, Nakajima N, Igarashi A, Ishikawa J, Inoue H, Maeyama K, Watanabe T, Takishima T, Shirato K. Antigen-induced airway responses are inhibited by a potassium channel opener. *Am J Respir Crit Care Med* 1994; 150: 388-393
38. Ishikawa J, Ichinose M, Nakajima N, Takahashi T, Yamauchi H, Miura M, Shirato K. Potassium channel opener, YM 934, inhibits neurogenic plasma leakage in guinea pig airways. *Am J Respir Crit Care Med* 1994; 150: 1379-1383

### 1995 年

39. Tomaki M, Ichinose M, Miura M, Hirayama Y, Yamauchi H, Nakajima N, Shirato K. Elevated substance P content in induced sputum from patients with asthma and patients with chronic bronchitis. *Am J Respir Crit Care Med* 1995; 151: 613-617
40. Kageyama N, Igarashi A, Ichinose M, Miura M, Yamauchi H, Tomaki M, Ishikawa J, Sasaki Y, Shirato K. Chronic allergen exposure enhances cholinergic neurotransmission in sensitized guinea pigs. *Eur Respir J* 1995; 8: 752-754
41. Ichinose M, Miura M, Takahashi T, Kageyama N, Tomaki M, Endoh N, Sakurai E, Watanabe T, Shirato K. Airway allergic response and potassium channels: histamine release and airway inflammation. *Methods Find Exp Clin Pharmacol* 1995; 17(C): 36-39

### 1996 年

42. Tomaki M, Ichinose M, Miura M, Hirayama Y, Kageyama N, Yamauchi H, Shirato K. Angiotensin converting enzyme (ACE) inhibitor-induced cough and substance P. *Thorax*

1996; 51: 199-201

43. Ichinose M, Miura M, Yamauchi H, Kageyama N, Tomaki M, Oyake T, Ohuchi Y, Hida W, Miki H, Tamura G, Shirato K. A neurokinin 1-receptor antagonist improves exercise-induced airway narrowing in asthmatic patients. *Am J Respir Crit Care Med* 1996; 153: 936-941
44. Ishikawa J, Ichinose M, Miura M, Kageyama N, Yamauchi H, Tomaki M, Sasaki Y, Shirato K. Involvement of endogenous tachykinins in LTD4-induced airway responses. *Eur Respir J* 1996; 9: 486-492
45. Kageyama N, Ichinose M, Igarashi A, Miura M, Yamauchi H, Sasaki Y, Ishikawa J, Tomaki M, Shirato K. Repeated allergen exposure enhances excitatory nonadrenergic noncholinergic nerve-mediated bronchoconstriction in sensitized guinea-pigs. *Eur Respir J* 1996; 8: 1439-1444
46. Miura M, Ichinose M, Kageyama N, Tomaki M, Takahashi T, Ishikawa J, Ohuchi Y, Oyake T, Endoh N, Shirato K. Endogenous nitric oxide modifies antigen-induced microvascular leakage in sensitized guinea pig airways. *J Allergy Clin Immunol* 1996; 98: 144-151
47. Ichinose M, Miura M, Tomaki M, Oyake T, Kageyama N, Ikarashi Y, Maruyama Y, Shirato K. Incubation with IgE increases cholinergic neurotransmission in human airways in vitro. *Am J Respir Crit Care Med* 1996; 154: 1272-1276

#### 1997 年

48. Kageyama N, Miura M, Ichinose M, Tomaki M, Ishikawa J, Ohuchi Y, Endoh N, Shirato K. Role of endogenous nitric oxide in airway microvascular leakage induced by inflammatory mediators. *Eur Respir J* 1997; 10: 13-19
49. Miura M, Yamauchi H, Ichinose M, Ohuchi Y, Kageyama N, Tomaki M, Endoh N, Shirato K. Impairment of neuronal nitric oxide-mediated relaxation after antigen exposure in guinea pig airways in vivo. *Am J Respir Crit Care Med* 1997; 156: 217-222

#### 1998 年

50. Endoh N, Ichinose M, Takahashi T, Miura M, Kageyama N, Mashito Y, Sugiura H, Ikeda K, Takasaka T, Shirato K. The relationship between cholinergic airway tone and serum IgE in human subjects. *Eur Respir J* 1998; 12: 71-74
51. Ohuchi Y, Ichinose M, Miura M, Kageyama N, Tomaki M, Endoh N, Mashito Y, Sugiura H, Shirato K. The induction of nitric oxide synthase by LPS inhalation enhances substance P-induced microvascular leakage. *Eur Respir J* 1998; 12: 831-836

#### 1999 年

52. Mashito Y, Ichinose M, Shirato K. Bradykinin B<sub>2</sub> antagonist HOE140 inhibits late allergic microvascular leakage in guinea pig airways. *Immunopharmacology* 1999; 43: 249-253
53. Sugiura H, Ichinose M, Oyake T, Mashito Y, Ohuchi Y, Endoh N, Miura M, Yamagata S, Koarai A, Akaike T, Maeda H, Shirato K. Role of peroxynitrite in airway microvascular hyperpermeability during late allergic phase in guinea pigs. *Am J Respir Crit Care Med* 1999; 160: 663-671
54. Mashito Y, Ichinose M, Sugiura H, Miura M, Endoh N, Shirato K. Sensory nerve activation in airway microvascular permeability in guinea pig late allergic response. *Eur Respir J* 1999; 14: 320-327

#### 2000 年

55. Ichinose M, Takahashi T, Sugiura H, Endoh N, Miura M, Mashito Y, Shirato K. Baseline airway hyperresponsiveness and its reversible component: role of airway inflammation and

caliber. *Eur Respir J* 2000; 15: 248-253

56. Yamagata S, Ichinose M, Sugiura H, Koarai A, Koike K, Shirato K. Effect of a calcium sensitization modulator, Y-27632, on isolated human bronchus and pulmonary artery. *Pulm Pharmacol Ther* 2000; 13: 25-29
57. Ichinose M, Sugiura H, Yamagata S, Koarai A, Shirato K. Increase in reactive nitrogen species production in chronic obstructive pulmonary disease airways. *Am J Respir Crit Care Med* 2000; 162: 701-706
58. Koarai A, Ichinose M, Sugiura H, Yamagata S, Hattori T, Shirato K. Allergic airway hyperresponsiveness and eosinophil infiltration is reduced by a selective iNOS inhibitor, 1400W, in mice. *Pulm Pharmacol Ther* 2000; 13: 267-275

#### 2002 年

59. Ohrui T, Arai H, Ichinose M, Matsui T, Yamaya M, Sasaki H. Relationship between asthma severity and progression of Alzheimer's disease. *Thorax* 2002; 57: 561
60. Tomaki M, Zhao LL, Sjostrand M, Linden A, Ichinose M, Lotvall JL. Comparison of effects of anti-IL-3, IL-5 and GM-CSF treatments on eosinophilopoiesis and airway eosinophilia induced by allergen. *Pulm Pharmacol Ther* 2002; 15: 161-168
61. Koarai A, Ichinose M, Sugiura H, Tomaki M, Watanabe M, Yamagata S, Komaki Y, Shirato K, Hattori T. iNOS depletion completely diminishes reactive nitrogen species formation after allergic response. *Eur Respir J* 2002; 20: 609-616

#### 2003 年

62. Koarai A, Ichinose M, Suzuki SI, Yamagata S, Sugiura H, Sakurai ME, Kobayashi Y, Kuramasu A, Watanabe T, Shirato K, Hattori T, Ohtsu H. Disruption of L-histidine decarboxylase reduces airway eosinophilia but not hyperresponsiveness. *Am J Respir Crit Care Med* 2003; 167: 758-763
63. Sugiura H, Ichinose M, Yamagata S, Koarai A, Shirato K, Hattori T. Correlation between pulmonary function change and suppression in reactive nitrogen species production following steroid treatment in COPD. *Thorax* 2003; 58: 299-305
64. Ichinose M, Sugiura H, Yamagata S, Koarai A, Tomaki M, Ogawa H, Komaki Y, Barnes PJ, Shirato K, Hattori T. Xanthine oxidase inhibition reduces reactive nitrogen species production in COPD airways. *Eur Respir J* 2003; 22: 457-461
65. Takahashi T, Ichinose M, Inoue H, Shirato K, Hattori T, Takishima T. Underdiagnosis and undertreatment of COPD in primary care setting. *Respirology* 2003; 8: 504-508

#### 2004 年

66. Sugiura H, Ichinose M, Tomaki M, Ogawa H, Koarai A, Kitamuro T, Komaki Y, Akita T, Nishino H, Okamoto S, Akaike T, Hattori T. Quantitative assessment of protein-bound tyrosine nitration in airway secretions from patients with inflammatory airway diseases. *Free Radic Res* 2004; 38: 49-57
67. Yukawa K, Hoshino K, Kishino M, Mune M, Shirasawa N, Kimura A, Tsubota Y, Makabe K, Tanaka T, Ichinose M, Maeda M, Takeda K, Akira S. Depletion of the kinase domain in death-associated protein kinase attenuates renal tubular cell apoptosis in chronic obstructive uropathy. *Int J Mol Med* 2004; 13: 515-520
68. Nara M, Sasamori K, Shimura S, Ogawa H, Suzuki S, Nagaoka M, Ichinose M, Tamura G, Hattori T. Long-term use of corticosteroid eye drops delays the spontaneous remission of pulmonary sarcoidosis. *Tohoku J Exp Med* 2004; 202: 275-282

69. Kishino M, Yukawa K, Hoshino K, Kimura A, Shirasawa N, Otani H, Tanaka T, Owada-Makabe K, Tsubota Y, Maeda M, Ichinose M, Takeda K, Akira S, Mune M. Deletion of the kinase domain in death-associated rotein kinase attenuates tubular cell apoptosis in renal ischemia-reperfusion injury. *J Am Soc Nephrol* 2004; 15: 1826-1834
70. Matsunaga K, Nishimoto T, Hirano T, Nakanishi M, Yamagata T, Minakata Y, Kuroda M, Ikeda T, Nakanishi H, Ichinose M. Effect of a leukotriene receptor antagonist on the prevention of recurrent asthma attacks after an emergency room visit. *Allergol Int* 2004; 53: 341-347
71. Fukuchi Y, Nishimura M, Ichinose M, Adachi M, Nagai A, Kuriyama T, Takahashi K, Nishimura K, Ishioka S, Aizawa H, Iqbal A. Chronic obstructive pulmonary disease (COPD) in Japan: The Nippon COPD epidemiology (NICE) study. *Respirology* 2004; 9: 458-465

#### 2005 年

72. Yukawa K, Hoshino K, Kishino M, Mune M, Shirasawa N, Kimura A, Tsubota Y, Owada-Makabe K, Bai T, Tanaka T, Ichinose M, Takeda K, Akira S, Maeda M. The kinase domain of death-associated protein kinase is inhibitory for tubulointerstitial fibrosis in chronic obstructive uropathy. *Int J Mol Med* 2005; 15: 73-78
73. Yukawa K, Kishino M, Goda M, Liang XM., Kimura A, Tanaka T, Bai T, Owada-Makabe K, Tsubota Y, Ueyama T, Ichinose M, Maeda M, Takeda K, Akira S. STAT6 deficiency inhibits tubulointerstitial fibrosis in obstructive nephropathy. *Int J Mol Med* 2005; 15: 225-230
74. Owada-Makabe K, Tsubota Y, Yukawa K, Kakimoto N, Liang XM, Ichinose M, Maeda M. Direct in vivo protein transduction into a specific restricted brain area in rats. *Neurosci Lett* 2005; 378: 18-21
75. Komaki Y, Sugiura H, Koarai A, Tomaki M, Ogawa H, Akita T, Hattori T, Ichinose M. Cytokine-mediated xanthine oxidase upregulation in chronic obstructive pulmonary disease's airways. *Pulm Pharmacol Ther* 2005; 18: 297-302
76. Tanaka H, Ueda H, Hamagami H, Yukawa S, Ichinose M, Miyano M, Mimura K, Nishide I, Zhang BX, Wang SW, Zhou SO, Li BH. Mutations in hepatitis B virus core regions correlate with hepatocellular injury in Chinese patients with chronic hepatitis B. *World J Gastroenterol* 2005; 11: 4693-4696
77. Minakata Y, Nakanishi M, Hirano T, Matsunaga K, Yamagata T, Ichinose M. Microvascular hyperpermeability in chronic obstructive pulmonary disease airways. *Thorax* 2005; 60: 882
78. Tanaka H, Tujioka H, Ueda H, Hamagami H, Kida Y, Ichinose M. Autoimmune hepatitis triggered by acute hepatitis A. *World J Gastroenterol* 2005; 11: 6069-6071
79. Ueda H, Hamagami H, Tanaka H, Kida Y, Ichinose M. Combination hepatic arterial infusion therapy is effective for ocular melanoma metastasis to the liver. *Oncol Rep* 2005; 14:1543-1546
80. Tanaka H, Miyano M, Ueda H, Fukui K, Ichinose M. Changes in serum and red blood cell membrane lipids in patients treated with interferon ribavirin for chronic hepatitis C. *Clin Exp Med* 2005; 5: 190-195
81. Fukuchi Y, Nagai A, Seyama K, Nishimura M, Hirata K, Kubo K, Ichinose M, Aizawa H and the BAREC Research Group. Clinical efficacy and safety of transdermal tulobuterol in the treatment of stable COPD: an open-label comparison with inhaled salmeterol. *Treatments in Resp Med* 2005; 4: 447-455

#### 2006年

82. Nara M, Sano K, Ogawa H, Tamada T, Nagaoka M, Okada K, Watanabe M, Moriya T, Miki H, Nakata K, Ichinose M and Hattori T. Serum antibody against granulocyte/macrophage colony-stimulating factor and KL-6 in idiopathic pulmonary alveolar proteinosis. *Tohoku J Exp Med* 2006; 208: 349-354
83. Matsunaga K, Yanagisawa S, Ichikawa T, Ueshima K, Akamatsu K, Hirano T, Nakanishi M, Yamagata T, Minakata Y, Ichinose M. Airway cytokine expression measured by means of protein array in exhaled breath condensate: correlation with physiologic properties in asthmatic patients. *J Allergy Clin Immunol* 2006; 118: 84-90
84. Hirano T, Yamagata T, Gohda M, Yamagata Y, Ichikawa T, Yanagisawa S, Ueshima K, Akamatsu K, Nakanishi M, Matsunaga K, Minakata Y, Ichinose M. Inhibition of reactive nitrogen species production in COPD airways: comparison of inhaled corticosteroid and oral theophylline. *Thorax* 2006; 61: 761-766
85. Tanaka H, Maeshima S, Shigekawa Y, Ueda H, Hamagami H, Kida Y, Ichinose M. Neuropsychological impairment and decreased patients with chronic hepatitis: a preliminary study. *Clin Exp Med* 2006; 6: 124-128
86. Matsunaga K, Yamagata T, Minakata Y, Ichinose M. Importance of assistance by caregivers for inhaled corticosteroid therapy in elderly patients with asthma. *J Am Geriatr Soc* 2006; 54: 1626-1627
87. Kida Y, Tsuji-Kawahara S, Ostapenko V, Kinoshita S, Kajiwara E, Kawabata H, Yuasa T, Nishide I, Yukawa S, Ichinose M, Miyazawa M. Increased liver temperature efficiently augments human cellular immune response: T-cell activation and possible monocyte translocation. *Cancer Immunol Immun* 2006; 55: 1459-1469

#### 2007年

88. Tanaka H, Maeshima S, Ueda H, Shigekawa Y, Fukuchi H, Kida Y, Ichinose M. Reduction of regional cerebral blood flow of patients with liver cirrhosis and its correlation with serum albumin. *Int Med J* 2007; 14: 35-39
89. Ueshima K, Minakata Y, Sugiura H, Yanagisawa S, Ichikawa T, Akamatsu K, Hirano T, Nakanishi M, Matsunaga K, Yamagata T, Ichinose M. The influence of free 3-nitrotyrosine and saliva on the quantitative analysis of protein-bound 3-nitrotyrosine in sputum. *Anal Chem Insights* 2007; 1: 1-7
90. Tomaki M, Sugiura H, Koarai A, Komaki Y, Akita T, Matsumoto T, Nakanishi A, Ogawa H, Hattori T, Ichinose M. Decreased expression of antioxidant enzymes and increased expression of chemokines in COPD lung. *Pulm Pharmacol Ther* 2007; 20: 596-605
91. Yamagata T, Sugiura H, Yokoyama T, Yanagisawa S, Ichikawa T, Ueshima K, Akamatsu K, Hirano T, Nakanishi M, Yamagata Y, Matsunaga K, Minakata Y, Ichinose M. Overexpression of CD-11b and CXCR1 on circulating neutrophils: its possible role in COPD. *Chest* 2007; 132: 890-899
92. Akamatsu K, Yamagata T, Takahashi T, Miura K, Maeda S, Yamagata Y, Ichikawa T, Yanagisawa S, Ueshima K, Hirano T, Nakanishi M, Matsunaga K, Minakata Y, Ichinose M. Improvement of pulmonary function and dyspnea by tiotropium in COPD patients using a transdermal  $\beta_2$ -agonist. *Pulm Pharmacol Ther* 2007; 20: 701-707
93. Ichikawa T, Matsunaga K, Minakata Y, Yanagisawa S, Ueshima K, Akamatsu K, Hirano T, Nakanishi M, Sugiura H, Yamagata T, Ichinose M. Possible impact of salivary contamination on cytokine analysis in exhaled breath condensate. *Anal Chem Insights* 2007; 2: 85-92

94. Kida Y, Ueda H, Tanaka H, Ichinose M. Estimated protein intake by urinary urea nitrogen in patients with early stage liver cirrhosis. *Hepatology International* 2007; 1: 382-386

#### 2008年

95. Yamagata T, Hirano T, Sugiura H, Yanagisawa S, Ichikawa T, Ueshima K, Akamats K, Nakanishi M, Matsunaga K, Minakata Y, Ichinose M. Comparison of bronchodilatory properties of transdermal and inhaled long-acting  $\beta_2$ -agonists. *Pulm Pharmacol Ther* 2008; 21: 160-165
96. Minakata Y, Sugiura H, Yamagata T, Yanagisawa S, Ichikawa T, Koarai A, Akamatsu K, Hirano T, Matsunaga K, Ichinose M. Prevalence of COPD in primary care clinics: correlation with non- respiratory diseases. *Intern Med* 2008; 47: 77-82
97. Minakata Y, Iijima H, Takahashi T, Miura M, Ogawa H, Kimura K, Koga T, Kinoshita M, Tsuda T, Aizawa H, Ichinose M. Efficacy and safety of formoterol in Japanese patients with COPD. *Intern Med* 2008; 47: 217-223
98. Sugiura H, Komaki Y, Koarai A, Ichinose M. Nitrate stress in refractory asthma. *J Allergy Clin Immunol* 2008; 121: 355-360
99. Tanaka H, Ueda H, Kida Y, Fukuchi H, Ichinose M. Rapid intrahepatic tumor seeding after percutaneous ethanol injection therapy for hepatocellular carcinoma. *Intern Med* 2008; 47: 411-414
100. Ueda H, Tanaka H, Kida Y, Fukuchi H, Ichinose M. Adjuvant chemotherapy with tegafur/uracil administration after transcatheter arterial chemoembolization for advanced hepatocellular carcinoma. *Oncol rep* 2008; 19: 1355-1361
101. Kawayama T, Minakata Y, Matsunaga K, Yamagata T, Tsuda T, Kinoshita M, Iwanaga T, Ichinose M, Aizawa H. Validation of symptom-based COPD questionnaires in Japanese subjects. *Respirology* 2008; 13: 420-426
102. Matsunaga K, Kanda M, Hayata A, Yanagisawa S, Ichikawa T, Akamatsu K, Koarai A, Hirano T, Sugiura H, Minakata Y, Ichinose M. Peak expiratory flow variability adjusted by forced expiratory volume in one second is a good index for airway responsiveness in asthmatics. *Intern Med* 2008; 47: 1107-1112
103. Akamatsu K, Yamagata T, Kida Y, Tanaka H, Ueda H, Ichinose M. Poor sensitivity of symptoms in early detection of COPD. *COPD* 2008; 5: 269-273
104. Ichikawa T, Sugiura H, Koarai A, Yanagisawa S, Kanda M, Hayata A, Furukawa K, Akamatsu K, Hirano T, Nakanishi M, Matsunaga K, Minakata Y, Ichinose M. Peroxynitrite augments fibroblast-mediated tissue remodeling via myofibroblast differentiation. *Am J Physiol Lung Cell Mol Physiol* 2008; 295: 800-808

#### 2009年

105. Yanagisawa S, Sugiura H, Yokoyama T, Yamagata T, Ichikawa T, Akamatsu K, Koarai A, Hirano T, Nakanishi M, Matsunaga K, Minakata Y, Ichinose M. The possible role of hematopoietic cell kinase in the pathophysiology of chronic obstructive pulmonary disease. *Chest* 2009; 135: 94-101
106. Yamagata T, Yamagata Y, Nishimoto T, Hirano T, Nakanishi M, Minakata Y, Ichinose M, Dagenais A, Berthiaume Y. The regulation of amiloride-sensitive epithelial sodium channels by tumor necrosis factor-alpha in injured lungs and alveolar type II cells. *Respir Physiol Neurobiol* 2009; 166: 16-23
107. Matsunaga K, Yanagisawa S, Ichikawa T, Akamatsu K, Koarai A, Hirano T, Sugiura H, Minakata Y, Ichinose M. Molecular mechanism of the additive effects of leukotriene modifier

in asthmatic patients receiving steroid therapy. *Allergol Int* 2009; 58: 89-96

108. Tanaka H, Ueda H, Fukuchi H, Ichinose M. Antifibrotic effect of edaravone in rat liver cirrhosis induced by dimethylnitrosamine. *Clin Exp Med* 2009; 9: 229-233
109. Nagaoka M, Nara M, Tamada T, Kume H, Oguma T, Kikuchi T, Zaini J, Moriya T, Ichinose M, Tamura G, Hattori T. Regulation of adenosine 5'-triphosphate (ATP)-gated P2X<sub>4</sub> receptors on tracheal smooth muscle cells. *Respir Physiol Neurobiol* 2009; 166: 61-67
110. Sugiura H, Ichikawa T, Koarai A, Yanagisawa S, Minakata Y, Matsunaga K, Hirano T, Akamatsu K, Ichinose M. Activation of toll-like receptor 3 augments myofibroblast differentiation. *Am J Respir Cell Mol Biol* 2009; 40: 654-662
111. Yanagisawa S, Koarai A, Sugiura H, Ichikawa T, Kanda M, Tanaka R, Akamatsu K, Hirano T, Matsunaga K, Minakata Y, Ichinose M. Oxidative stress augments toll-like receptor 8 mediated neutrophilic responses in healthy subjects. *Respir Res* 2009; 10: 50
112. Matsunaga K, Ichikawa T, Yanagisawa S, Akamatsu K, Koarai A, Hirano T, Sugiura H, Minakata Y, Ichinose M. Clinical application of exhaled breath condensate analysis in asthma: prediction of FEV<sub>1</sub> improvement by steroid therapy. *Respiration* 2009; 78: 393-398
113. Sugiura H, Ichikawa T, Liu X, Kobayashi T, Wang XQ, Kawasaki S, Togo S, Kamio K, Mao L, Ann Y, Ichinose M, Rennard SI. N-acetyl-L-cysteine inhibits TGF- $\beta$ <sub>1</sub>-induced profibrotic responses in fibroblasts. *Pulm Pharmacol Ther* 2009; 22: 487-491
114. Sugiura H, Liu X, Ichikawa T, Ichinose M, Rennard SI. 3-Nitrotyrosine inhibits fibroblast-mediated collagen gel contraction and chemotaxis. *Eur Respir J* 2009; 34: 1452-1460

#### 2010 年

115. Koarai A, Sugiura H, Yanagisawa S, Ichikawa T, Minakata Y, Matsunaga K, Hirano T, Akamatsu K, Ichinose M: Oxidative stress enhances toll-like receptor 3 response to double-stranded RNA in airway epithelial cells. *Am J Respir Cell Mol Biol* 2010; 42: 651-660
116. Ichinose M, Fujimoto T, Fukuchi Y. Tiotropium 5  $\mu$ g via Respimat and 18  $\mu$ g via HandiHaler; efficacy and safety in Japanese COPD patients. *Respir Med* 2010; 104: 228-236
117. Ichinose M, Seyama K, Nishimura M, Fukuchi Y, Nagai A, Mishima M, Kubo K, for the Beta-2 Agonist Research and Evaluation Committee in COPD (BAREC) Study Group. Additive effects of transdermal tulobuterol to inhaled tiotropium in patients with COPD. *Respir Med* 2010; 104: 267-274
118. Sugihara N, Kanada S, Haida M, Ichinose M, Adachi M, Hosoe M, Emery C, Higgins M, Kramer B. 24-h bronchodilator efficacy of single doses of indacaterol in Japanese patients with asthma: A comparison with placebo and salmeterol. *Respir Med* 2010; 104: 1629-1637
119. Minakata Y, Ueda H, Akamatsu K, Kanda M, Yanagisawa S, Ichikawa T, Koarai A, Hirano T, Sugiura H, Matsunaga K, Ichinose M. High COPD prevalence in the patients with liver diseases. *Intern Med* 2010; 49: 2687-2691
120. Matsunaga K, Hirano T, Kawayama T, Tsuburai T, Nagase H, Aizawa H, Akiyama K, Ohta K and Ichinose M. Reference ranges for exhaled nitric oxide fraction in healthy Japanese adult population. *Allergol Int* 2010; 59: 363-367

#### 2011 年

121. Furukawa K, Sugiura H, Matsunaga K, Ichikawa T, Koarai A, Hirano T, Yanagisawa S, Minakata Y, Akamatsu K, Kanda M, Nishigai M and Ichinose M. Increase of nitrosative stress

in patients with eosinophilic pneumonia. *Respir Res* 2011; 12: 81

122. Ohta K, Bousquet PJ, Aizawa H, Akiyama K, Adachi M, Ichinose M, Ebisawa M, Tamura G, Nagai A, Nishima S, Fukuda T, Morikawa A, Okamoto Y, Kohno Y, Saito H, Takenaka H, Grouse L & Bousquet J. Prevalence and impact of rhinitis in asthma. SACRA, a cross-sectional nation-wide study in Japan. *Allergy* 2011; 66: 1287-1295
123. Akamatsu K, Matsunaga K, Sugiura H, Koarai A, Hirano T, Minakata Y and Ichinose M. Improvement of airflow limitation by fluticasone propionate/salmeterol in chronic obstructive pulmonary disease: what is the specific marker? *Front Pharmacol* 2011; 18
124. Matsunaga K, Hirano T, Akamatsu K, Koarai A, Sugiura H, Minakata Y, Ichinose M. Exhaled nitric oxide cutoff values for asthma diagnosis according to rhinitis and smoking status in Japanese subjects. *Allergol Int* 2011; 60: 331-337
125. Bogdan MA, Aizawa H, Fukuchi Y, Mishima M, Nishimura M, Ichinose M. Efficacy and safety of inhaled formoterol 4.5 and 9 µg twice daily in Japanese and European COPD patients: Phase III study results. *BMC Pulm Med* 2011; 11: 51

#### 2012 年

126. Kida Y, Minakata Y, Yamada Y, Ichinose M. Efficacy of non-invasive positive pressure ventilation in elderly patients with acute hypercapnic respiratory failure. *Respiration* 2012; 83: 377-382
127. Kanda M, Minakata Y, Matsunaga K, Sugiura H, Hirano T, Koarai A, Akamatsu K, Ichikawa T and Ichinose M. Validation of the triaxial accelerometer for the evaluation of physical activity in Japanese patients with COPD. *Intern Med* 2012; 51: 369-375
128. Sugino A, Minakata Y, Kanda M, Akamatsu K, Koarai A, Hirano T, Sugiura H, Matsunaga K, Ichinose M. Validation of a compact motion sensor for the measurement of physical activity in patients with chronic obstructive pulmonary disease. *Respiration* 2012; 83: 300-307
129. Kinoshita M, Lee SH, Hang LW, Ichinose M, Hosoe M, Okino N, Prasad N, Kramer B, Fukuchi Y; for the Indacaterol Asian COPD study investigators. Efficacy and safety of indacaterol 150 and 300 µg in chronic obstructive pulmonary disease patients from six Asian areas including Japan: A 12-week, placebo-controlled study. *Respirology* 2012; 17: 379-389
130. Sugiura H, Koarai A, Ichikawa T, Minakata Y, Matsunaga K, Hirano T, Akamatsu K, Yanagisawa S, Furusawa M, Uno Y, Yamasaki M, Satomi Y, Ichinose M. Increased 25-hydroxycholesterol concentrations in the lungs of patients with chronic obstructive pulmonary disease. *Respirology* 2012; 17: 533-540
131. Sugiura H, Kawabata H, Ichikawa T, Koarai A, Yanagisawa S, Kikuchi T, Minakata Y, Matsunaga K, Nakanishi M, Hirano T, Akamatsu K, Furukawa K, Ichinose M. Inhibitory effects of theophylline on the peroxynitrite-augmented release of matrix metalloproteinases by lung fibroblasts. *Am J Physiol Lung Cell Mol Physiol* 2012; 302: 764-774
132. Kikuchi T, Sugiura H, Koarai A, Ichikawa T, Minakata Y, Matsunaga K, Nakanishi M, Hirano T, Akamatsu K, Yanagisawa S, Furukawa K, Kawabata H, Ichinose M. Increase of 27-hydroxycholesterol in the airways of patients with chronic obstructive pulmonary disease: possible role of 27-hydroxycholesterol in tissue fibrosis. *Chest* 2012; 142: 329-337
133. Tomita K, Sano H, Iwanaga T, Ishihara K, Ichinose M, Kawase I, Kimura H, Hirano K, Fujimura M, Mishima M, Tohda Y, and on Behalf of Kansai and Hokuriku Asthma Treatment Association: Association between episodes of upper respiratory infection and exacerbations in adult patients with asthma. *J Asthma* 2012; 49: 253-259



134. Koarai A, Yanagisawa S, Sugiura H, Ichikawa T, Akamatsu K, Hirano T, Nakanishi M, Matsunaga K, Minakata Y, Ichinose M. Cigarette smoke augments the expression and responses of toll-like receptor 3 in human macrophages. *Respirology* 2012; 17: 1018-1025
135. Koarai A, Yanagisawa S, Sugiura H, Ichikawa T, Kikuchi T, Furukawa K, Akamatsu K, Hirano T, Nakanishi M, Matsunaga K, Minakata Y, Ichinose M. 25-hydroxycholesterol enhances cytokine release and toll-like receptor 3 response in airway epithelial cells. *Respir Res* 2012; 13: 63
136. Matsunaga K, Yanagisawa S, Hirano T, Ichikawa T, Koarai A, Akamatsu K, Sugiura H, Minakata Y, Matsunaga K, Kawayama T, Ichinose M. Associated demographics of persistent exhaled nitric oxide elevation in treated asthmatics. *Clin Exp Allergy* 2012; 42: 775-781
137. Matsunaga K, Akamatsu K, Hirano T, Ichinose M. Response to treatment in individuals with late-onset asthma. *J Am Geriatr Soc* 2012; 60: 1587-1588
138. To Y, Kinoshita M, Lee SH, Hang LW, Ichinose M, Fukuchi Y, Kitawaki T, Okino N, Prasad N, Lawrence D, Kramer B: Assessing efficacy of indacaterol in moderate and severe COPD patients: A 12-week study in an Asian population. *Respir Med* 2012; 106: 1715-1721

### 2013 年

139. Matsunaga K, Akamatsu K, Miyatake A, Ichinose M. Natural history and risk factors of obstructive changes over a 10-year period in severe asthma. *Respir Med* 2013; 107, 355-360
140. Ichikawa T, Sugiura H, Koarai A, Kikuchi T, Hiramatsu M, Kawabata H, Akamatsu K, Hirano T, Nakanishi M, Matsunaga K, Minakata Y, Ichinose M. 25-Hydroxycholesterol promotes fibroblast-mediated tissue remodeling through NF- $\kappa$ B dependent pathway. *Exp Cell Res* 2013; 319: 1176-1186
141. Ohta K, Bousquet PJ, Akiyama K, Adachi M, Ichinose M, Ebisawa M, Tamura G, Nagai A, Nishima S, Fukuda T, Morikawa A, Okamoto, Kohno Y, Saito H, Takenaka H, Grouse L, Bousquet J: Visual analogue scale as a predictor of GINA-defined asthma control. The SACRA study in Japan. *J Asthma* 2013; 50: 514-521
142. Fukuchi Y, Samoro R, Fassakhov R, Taniguchi H, Ekelund J, Carlsson LG, Ichinose M. Budesonide/formoterol via Turbuhaler versus formoterol via Turbuhaler in patients with moderate to severe chronic obstructive pulmonary disease: Phase III multinational study results. *Respirology* 2013; 18: 866-873
143. Matsunaga K, Kawabata H, Hirano T, Sugiura H, Minakata Y, Ichinose M. Difference in time-course of improvement in asthma control measures between budesonide and budesonide/formoterol. *Pulm Pharmacol Ther* 2013; 26: 189-194
144. Ohkouchi S, Shibuya R, Yanai M, Kikuchi Y, Ichinose M, Nukiwa T. Deterioration in regional health status after the acute phase of a great disaster: Respiratory physicians' experiences of the Great East Japan Earthquake. *Respir Investig* 2013; 51: 50-55
145. Hirano T, Matsunaga K, Sugiura H, Minakata Y, Koarai A, Akamatsu K, Ichikawa T, Furukawa K, Ichinose M. Persistent elevation of exhaled nitric oxide and modification of corticosteroid therapy in asthma. *Respir Investig* 2013; 51: 84-91
146. Hayata A, Mastunaga K, Hirano T, Akamatsu K, Ichikawa T, Minakata Y, Ichinose M. Stratifying a risk for an increased variation of airway caliber among the clinically stable asthma. *Allergol Int* 2013; 62: 343-349
147. Niu K, Guo H, Guo Y, Ebihara S, Asada M, Ohru T, Furukawa K, Ichinose M, Yanai K, Kudo Y, Arai H, Okazaki T, Nagatomi R. Royal jelly prevents the progression of sarcopenia

in aged mice in vivo and in vitro. *J Gerontol A Biol Sci Med Sci* 2013; 68: 1482-1492

148. Yamada M, Kubo H, Ota C, Takahashi T, Tando Y, Suzuki T, Fujino N, Makiguchi T, Takagi K, Suzuki T, Ichinose M. The increase of microRNA-21 during lung fibrosis and its contribution to epithelial-mesenchymal transition in pulmonary epithelial cells. *Respir Res* 2013; 14: 95
149. Hirano T, Matsunaga K, Sugiura H, Minakata Y, Koarai A, Akamatsu K, Ichikawa T, Furukawa K, Ichinose M. Relationship between alveolar nitric oxide concentration in exhaled air and small airway function in COPD. *J Breath Res* 2013; 7
150. Muramatsu S, Tamada T, Nara M, Murakami K, Kikuchi T, Kanehira M, Maruyama M, Ebina M, Nukiwa T, Ichinose M. Flagellin/TLR5 signaling potentiates airway serouse secretion from swine tracheal submucosal glands. *Am J Physiol Lung Cell Mol Physiol* 2013; 305: L819-830
151. Minakata Y, Morishita Y, Hiramatsu M, Ichikawa T, Akamatsu K, Hirano T, Nakanishi M, Matsunaga K, Ichinose M. Effect of transdermal tulobuterol patch on the physical activity in eight male subjects with chronic obstructive pulmonary disease. *Clin Res Pulmonol* 2013; 1: 1010
152. Hisata S, Sakaguchi H, Kanegane H, Hidaka T, Ichinose M, Kojima S, Nukiwa T, Ebina M. A novel missense mutation of DKC1 in dyskeratosis congenita with pulmonary fibrosis. *Sarcoidosis Vasc Diffuse Lung Dis* 2013; 30: 221-225

#### 2014 年

153. Minakata Y, Sugino A, Kanda M, Ichikawa T, Akamatsu K, Koarai A, Hirano T, Nakanishi M, Sugiura H, Matsunaga K, Ichinose M. Reduced level of physical activity in Japanese patients with chronic obstructive pulmonary disease. *Respir Investig* 2014; 52: 41-48
154. Kobayashi M, Sakakibara T, Inoue A, Fukuhara T, Sasano H, Ichinose M, Nukiwa T. An Effective enrichment strategy for EML4-ALK fusion gene screening in patients with non-small cell lung cancer. *Respir Investig* 2014; 52: 49-56
155. Guo Y, Niu K, Okazaki T, Wu H, Yoshikawa T, Ohru T, Furukawa K, Ichinose M, Yanai K, Arai H, Huang G, Nagatomi R. Coffee treatment prevents the progression of sarcopenia in aged mice in vivo and in vitro. *Exp Gerontol* 2014; 50: 1-8
156. Landis SH, Muellerova H, Mannino DM, Han MK, van der Molen T, Ichinose M, Aisanov Z, Oh Y-M, Davis KJ. Continuing to confront COPD international patient survey: methods, COPD prevalence, and disease burden in 2012-2013 *Int J Chron Obstruct Pulmon Dis* 2014; 9: 597-611
157. Ichikawa T, Sugiura H, Koarai A, Minakata Y, Kikuchi T, Morishita Y, Oka A, Kanai K, Kawabata H, Hiramatsu M, Akamatsu K, Hirano T, Nakanishi M, Matsunaga K, Yamamoto N, Ichinose M. TLR3 activation augments matrix metalloproteinase production through reactive nitrogen species generation in human lung fibroblasts. *J Immunol* 2014; 192: 4977-4988
158. Kanehira M, Kikuchi T, Santoso A, Tode N, Hirano T, Ohkouchi S, Tamada T, Sugiura H, Harigae H, Ichinose M. Human marrow stromal cells downsize the stem cell fraction of lung cancers by fibroblast growth factor 10. *Mol Cell Biol* 2014; 34: 2848-2856
159. Watanuki Z, Kosai H, Osanai N, Ogama N, Mochizuki M, Tamai K, Yamaguchi K, Satoh K, Fukuhara T, Maemondo M, Ichinose M, Nukiwa T, Tanaka N. Synergistic cytotoxicity of afatinib and cetuximab against EGFR T790M involves Rab11-dependent EGFR recycling. *Biochem Biophys Res Commun* 2014; 455:269-276

160. Davis KJ, Landis SH, Oh Y-M, David M Mannino DM, Han MK, van der Molen, Aisanov Z, Menezes AM, Ichinose M, Muellerova H. Continuing to confront COPD international physician survey: physician knowledge and application of COPD management guidelines in 12 countries. *Int J Chron Obstruct Pulmon Dis* 2014; 10: 39-55

#### 2015 年

161. Menezes AM, Landis SH, Han MK, Muellerova H, Aisanov Z, van der Molen T, Oh Y-M, Ichinose M, Mannino DM, Davis KJ. Continuing to confront COPD international surveys: comparison of patient and physician perceptions about COPD risk and management. *Int J Chron Obstruct Pulmon Dis* 2015; 10: 159-172
162. Ono M, Ohkouchi S, Kanehira M, Tode N, Kobayashi M, Ebina M, Nukiwa T, Irokawa T, Ogawa H, Akaike T, Okada Y, Kurosawa H, Kikuchi T, Ichinose M. Mesenchymal stem cells correct inappropriate epithelial-mesenchyme relation in pulmonary fibrosis using stanniocalcin-1. *Mol Ther* 2015; 23: 549-560
163. Nihei M, Okazaki T, Ebihara S, Kobayashi M, Niu K, Gui P, Tamai T, Nukiwa T, Yamaya M, Kikuchi T, Nagatomi R, Ebihara T, Ichinose M. Chronic inflammation, lymphangiogenesis, and effect of an anti-VEGFR therapy in a mouse model and in human patients with aspiration pneumonia. *J Pathol* 2015; 235:632-645
164. Tsukuya G, Matsumoto K, Fukuyama S, Crawford B, Nakanishi Y, Ichinose M, Machida K, Samukawa T, Ninomiya T, Kiyohara Y, Inoue H, on behalf of the Hisayama Pulmonary Physiology Study Group. Validation of a COPD screening questionnaire and establishment of diagnostic cut-points in a Japanese general population: The Hisayama study. *Allergol Int* 2015; 64: 49e53
165. Kanai K, Koarai A, Shishikura Y, Sugiura H, Ichikawa T, Kikuchi T, Akamatsu K, Hirano T, Nakanishi M, Matsunaga K, Minakata Y, Ichinose M. Cigarette smoke augments MUC5AC production via the TLR3-EGFR pathway in airway epithelial cells. *Respir Investig* 2015; 53: 137-48
166. Tojo Y, Sekine H, Hirano I, Pan X, Souma T, Tsujita T, Kawaguchi S, Takeda N, Takeda K, Fong GH, Dan T, Ichinose M, Miyata T, Yamamoto M, Suzuki N. Hypoxia signaling cascade for erythropoietin production in hepatocytes. *Mol Cell Biol* 2015; 35: 2658-2672
167. Ohta K, Ichinose M, Tohda Y, Engel M, Moroni-Zentgraf P, Kunimitsu S, Sakamoto W, Adachi M. Long-term once-daily Tiotropium Respimat® is well tolerated and maintains efficacy over 52 weeks in patients with symptomatic asthma in Japan: A randomised, placebo-controlled study. *PLoS One* 2015; 10
168. Matsunaga K, Hayata A, Akamatsu K, Hirano T, Tamada T, Kamei T, Tsuda T, Nakamura H, Takahashi T, Hozawa S, Mori Y, Sakamoto Y, Kimura K, Katsumata U, Miura M, Ichinose M. Stratifying the risk of COPD exacerbation using the modified Medical Research Council scale: a cross-sectional CAP study. *Respir Investig* 2015; 53: 82-85
169. Narumi S, Miki Y, Hata S, Ebina M, Saito M, Mori K, Kobayashi M, Suzuki T, Iwabuchi E, Sato I, Maemondo M, Endo C, Inoue A, Kondo T, Yamada-Okabe H, Ichinose M, Sasano H. Anterior gradient 2 is correlated with EGFR mutation in lung adenocarcinoma tissues. *Int J Biol Markers* 2015; 30: e234-242
170. Minakata Y, Morishita Y, Ichikawa T, Akamatsu K, Hirano T, Nakanishi M, Matsunaga K, Ichinose M. Effects of pharmacologic treatment based on airflow limitation and breathlessness on daily physical activity in patients with chronic obstructive pulmonary disease. *Int J Chron Obstruct Pulmon Dis* 2015; 10: 1275-1282

171. Ichinose M, Takizawa A, Izumoto T, Tadayasu Y, Hamilton AL, Kunz C, Fukuchi Y. Efficacy and safety of the long-acting  $\beta_2$ -agonist olodaterol over 4 weeks in Japanese patients with chronic obstructive pulmonary disease. *Int J Chron Obstruct Pulmon Dis* 2015; 10: 1673-1683
172. Santoso A, Kikuchi T, Tode N, Hirano T, Komatsu R, Damayanti T, Motohashi H, Yamamoto M, Kojima T, Uede T, Nukiwa T, Ichinose M. Syndecan 4 mediates Nrf2-dependent expansion of bronchiolar progenitors that protect against lung inflammation. *Mol Ther* 2015; 24: 41-52
173. Tamada T, Sugiura H, Takahashi T, Matsunaga K, Kimura K, Katsumata U, Takekoshi D, Kikuchi T, Ohta K, Ichinose M. Biomarker-based detection of asthma-COPD overlap syndrome in COPD populations. *Int J Chron Obstruct Pulmon Dis* 2015; 10: 2169-2176
174. Nakano Y, Fujimura S, Sato T, Kikuchi T, Ichinose M, Watanabe A. Sterilization method using plasma discharge against biofilm-producing *pseudomonas aeruginosa* on surface of contact lens. *J Med Biol Eng* 2015; 35: 626-633
175. Miyauchi E, Motoi N, Ono H, Ninomiya H, Ohyanagi F, Nishino M, Okumura S, Ichinose M, Ishikawa Y. Distinct characteristics of small cell lung cancer correlate with central or peripheral origin: subtyping based on location and expression of transcription factor TTF-1. *Medicine* 2015; 94: e2324

#### 2016 年

176. Tamada T, Sugiura H, Takahashi T, Matsunaga K, Kimura K, Katsumata U, Ohta K, Ichinose M. Coexisting COPD in elderly asthma with fixed airflow limitation: Assessment by DLco %predicted and HRCT. *J Asthma*. 2016:1-9
177. Shishikura Y, Koarai A, Aizawa H, Yamaya M, Sugiura H, Watanabe M, Hashimoto Y, Numakura T, Makiguti T, Abe K, Yamada M, Kikuchi T, Hoshikawa Y, Okada Y, Ichinose M. Extracellular ATP is involved in dsRNA-induced MUC5AC production via P2Y2R in human airway epithelium. *Respir Res* 2016; 17: 121
178. Ichinose M, Taniguchi H, Takizawa A, Grönke L, Loaiza L, Voß F, Zhao Y, Fukuchi Y. The efficacy and safety of combined tiotropium and olodaterol via the Respimat(®) inhaler in patients with COPD: results from the Japanese sub-population of the Tornado(®) studies. *Int J Chron Obstruct Pulmon Dis* 2016; 11: 2017-27
179. Saito R, Suzuki T, Hiramoto K, Asami S, Naganuma E, Suda H, Iso T, Yamamoto H, Morita M, Furusawa Y, Negishi T, Ichinose M, Yamamoto M. Characterizations of three major cysteine sensors of Keap1 in stress response. *Mol Cell Biol* 2016; 36: 271-284
180. Sato K, Okada S, Sugawara A, Tode N, Watanuki Z, Suzuki K, Ichinose M. Improving physical activity ensures the long-term survival of pneumonia patients in a super-aged society: A retrospective study in an acute-care hospital in Japan. *Tohoku J Exp Med* 2016; 238: 237-245
181. Müllerová H, HLandis S, Aisanov Z, Davis KJ, Ichinose M, Mannino DM, Maskell J, Menezes AM, van der Molen T, Oh Y-M, Tabberer M. Health behaviors and their correlates among participants in the Continuing to Confront COPD International Patient Survey. *Int J Chron Obstruct Pulmon Dis* 2016; 11: 881-890
182. Fukuchi Y, Tatsumi K, Inoue H, Sakata Y, Shibata K, Miyagishi H, Marukawa Y, Ichinose M. Prevention of COPD exacerbation by lysozyme: a double-blind, randomized, placebo-controlled study. *Int J Chron Obstruct Pulmon Dis* 2016; 11: 831-838

183. Abe K, Sugiura H, Hashimoto Y, Ichikawa T, Koarai A, Yamada M, Numakura T, Onodera K, Tanaka R, Sato K, Yanagisawa S, Okazaki T, Tamada T, Kikuchi T, Ichinose M. Possible role of Krüppel-like factor 5 in the remodeling of small airways and pulmonary vessels in chronic obstructive pulmonary disease. *Resp Res* 2016; 17: 7-20
184. Foo J, Landis SH, Maskell J, Oh YM, van der Molen T, Han MK, Mannino DM, Ichinose M, Punekar Y. Continuing to confront COPD international patient survey: Economic impact of COPD in 12 countries. *PLoS One* 2016; 11e0152618
185. Hirano T, Kikuchi T, Tode N, Santoso A, Yamada M, Mitsuhashi Y, Komatsu R, Kawabe T, Tanimoto T, Ishii N, Tanaka Y, Nishimura H, Nukiwa T, Watanabe A, Ichinose M. OX40 ligand newly expressed on bronchiolar progenitors mediates infection and further exacerbates pneumonia. *EMBO Mol Med* 2016; 8: 422-436
186. Sakamoto Y, Sakamoto K, Minakata Y, Shiba S, Takeshi Nakamura T, Ichinose M, Tajima F. Walking pattern in COPD patients. *Rehabilitation Nursing* 2016; 41: 211-217
187. Makiguchi T, Yamada M, Yoshioka Y, Sugiura H, Koarai A, Chiba S, Fujino N, Tojo Y, Ota C, Kubo H, Kobayashi S, Yanai M, Shimura S, Ochiya T, Ichinose M. Serum extracellular vesicular miR-21-5p is a predictor of the prognosis in idiopathic pulmonary fibrosis. *Respir Res* 2016; 17: 110
188. Motegi T, Takahashi T, Katsura H, Ichinose M, Nagai A. The development and validation of a new questionnaire to address the gap between the actual and desired states in COPD patients. *Lung Dis Treat* 2016; 2: 3
189. Hashimoto Y, Sugiura H, Togo S, Koarai A, Abe K, Yamada M, Ichikawa T, Kikuchi T, Numakura T, Onodera K, Tanaka R, Sato K, Yanagisawa S, Okazaki T, Tamada T, Kikuchi T, Hoshikawa Y, Okada Y, Ichinose M. 27-Hydroxycholesterol accelerates cellular senescence in human lung resident cells. *Am J Physiol Cell Mol Physiol* 2016; 310: L1028-1041
- 2017 年**
190. Tode N, Kikuchi T, Sakakibara T, Hirano T, Inoue A, Ohkouchi S, Tamada T, Okazaki T, Koarai A, Sugiura H, Niihori T, Aoki Y, Nakayama K, Matsumoto K, Matsubara Y, Yamamoto M, Watanabe A, Nukiwa T, Ichinose M. Exome sequencing deciphers a germline MET mutation in familial epidermal growth factor receptor-mutant lung cancer. *Cancer Sci* 2017; 108: 1263-1270
191. Ichinose M, Kato M, Takizawa A, Sakamoto W, Grönke L, Tetzlaff K, Fukuchi Y. Long-term safety and efficacy of combined tiotropium and olodaterol in Japanese patients with chronic obstructive pulmonary disease. *Respir Investig* 2017; 55: 121-129
192. Wedzicha JA, Zhong N, Ichinose M, Humphries M, Fogel R, Thach C, Patalano F, Banerji D. Indacaterol/glycopyrronium versus salmeterol/fluticasone in Asian patients with COPD at a high risk of exacerbations: results from the FLAME study. *Int J Chron Obstruct Pulmon Dis* 2017; 12: 339-349
193. Onodera K, Sugiura H, Yamada M, Koarai A, Fujino N, Yanagisawa S, Tanaka R, Numakura T, Togo S, Sato K, Kyogoku Y, Hashimoto Y, Okazaki T, Tamada T, Kobayashi S, Yanai M, Miura M, Hoshikawa Y, Okada Y, Suzuki S, Ichinose M. Decrease in an anti-ageing factor, growth differentiation factor 11, in chronic obstructive pulmonary disease. *Thorax* 2017; 72: 893-904
194. Ebina-Shibuya R, Matsumoto M, Kuwahara M, Kyoung-Jin Jang, Sugai M, Ito Y, Funayama R, Nakayama K, Sato Y, Ishii N, Okamura Y, Kinoshita K, Kometani K, Kurosaki T, Muto A, Ichinose M, Yamashita M, Igarashi K. Inflammatory responses induce an identity

crisis of alveolar macrophages leading to pulmonary alveolar proteinases. *J Biol Chem* 2017; 292: 18098-18112

195. Numakura T, Sugiura H, Akaike T, Ida T, Fujii S, Koarai A, Yamada M, Onodera K, Hashimoto Y, Tanaka R, Sato K, Shishikura Y, Hirano T, Yanagisawa S, Fujino N, Okazaki T, Tamada T, Hoshikawa Y, Okada Y, Ichinose M. Production of reactive persulfide species in chronic obstructive pulmonary disease. *Thorax* 2017; 72: 1074-1083
196. Miyauchi E, Inoue A, Usui K, Sugawara S, Maemondo M, Saito H, Fujita Y, Kato T, Suzuki T, Harada T, Watanabe H, Nakagawa T, Ichinose M. Phase II study of modified carboplatin plus weekly nab-paclitaxel in elderly patients with non-small cell lung cancer: North Japan Lung Cancer Study Group Trial 1301. *Oncologist* 2017; 22: 640-e59
197. Ichinose M, Minakata Y, Motegi T, Ueki J, Seki T, Anzai T, Takizawa A, Grönke L, Hirata K. Study design of VESUTO®: Efficacy of tiotropium/olodaterol on lung hyperinflation, exercise capacity, and physical activity in Japanese patients with chronic obstructive pulmonary disease. *Adv Ther* 2017; 34: 1622-1635
198. Inoue H, Nagase T, Morita S, Yoshida A, Jinnai T, Ichinose M. Prevalence and characteristics of asthma-COPD overlap syndrome identified by a stepwise approach. *Int J Chron Obstruct Pulmon Dis* 2017; 12: 1803-1810
199. Bai C, Ichinose M, Lee SH, Lee KH, Jöns O, Bothner U, Zhao Y, Buhl R. Lung function and long-term safety of tiotropium/olodaterol in East Asian patients with chronic obstructive pulmonary disease. *Int J Chron Obstruct Pulmon Dis* 2017; 12: 3329-3339

#### 2018 年

200. Aizawa H, Koarai A, Shishikura Y, Yanagisawa S, Yamaya M, Sugiura H, Numakura T, Yamada M, Ichikawa T, Fujino N, Noda M, Okada Y, Ichinose M. Oxidative stress enhances the expression of IL-33 in human airway epithelial cells. *Respir Res* 2018; 19: 52
201. Hirano T, Ohkouchi S, Tode N, Kobayashi M, Ono M, Satoh T, Mitsuishi Y, Watanabe A, Tabata M, Irokawa T, Ogawa H, Sugiura H, Kikuchi T, Akasaka K, Tazawa R, Inoue Y, Nakata K, Kurosawa H, Ichinose M. Peripheral alveolar nitric oxide concentration reflects alveolar inflammation in autoimmune pulmonary alveolar proteinosis. *ERJ Open Res* 2018; 4
202. Yamada E, Himori N, Kunikata H, Omodaka K, Ogawa H, Ichinose M, Nakazawa T. The relationship between increased oxidative stress and visual field defect progression in glaucoma patients with sleep apnoea syndrome. *Acta Ophthalmol* 2018
203. Tanaka R, Sugiura H, Yamada M, Ichikawa T, Koarai A, Fujino N, Yanagisawa S, Onodera K, Numakura T, Sato K, Kyogoku Y, Sano H, Yamanaka S, Okazaki T, Tamada T, Miura M, Takahashi T, Ichinose M. Physical inactivity is associated with decreased growth differentiation factor 11 in chronic obstructive pulmonary disease. *Int J Chron Obstruct Pulmon Dis* 2018; 13: 1333-1342
204. Ichinose M, Minakata Y, Motegi T, Ueki J, Gon Y, Seki T, Anzai T, Nakamura S, Hirata K. Efficacy of tiotropium/olodaterol on lung volume, exercise capacity, and physical activity. *Int J Chron Obstruct Pulmon Dis* 2018; 13: 1407-1419
205. Kamata S, Fujino N, Yamada M, Grime K, Suzuki S, Ota C, Tando Y, Okada Y, Sakurada A, Noda M, Matsuda Y, Sugiura H, Ichinose M. Expression of cytochrome P450 mRNAs in Type II alveolar cells from subjects with chronic obstructive pulmonary disease. *Pharmacol Res Perspect* 2018; e00405
206. Komatsu R, Okazaki T, Ebihara S, Kobayashi M, Tsukita Y, Nihei M, Sugiura H, Niu K, Ebihara T, Ichinose M. Aspiration pneumonia induces muscle atrophy in the respiratory, skeletal, and swallowing systems. *J Cachexia Sarcopenia Muscle* 2018; 9: 643-653

207. Ferguson GT, Rabe KF, Martinez FJ, Fabbri LM, Wang C, Ichinose M, Bourne E, Ballal S, Darken P, DeAngelis K, Aurivillius M, Dorinsky P, Reisner C. Triple therapy with budesonide/glycopyrrolate/formoterol fumarate with co-suspension delivery technology versus dual therapies in chronic obstructive pulmonary disease (KRONOS): a double-blind, parallel-group, multicentre, phase 3 randomised controlled trial. *Lancet Respir Med* 2018; 10: 747-758
208. Hirano T, Fujino N, Takase K, Ota H, Tanaka R, Saito R, Suzuki A, Okutomo K, Sato T, Kageyama S, Tamada T, Sugiura H, Ichinose M. Pulmonary Lymphatic Perfusion Syndrome. *Am J Respir Crit Care Med* 2018; 199: 529-530
209. Hirano T, Koarai A, Ichikawa T, Sato T, Ohe T, Ichinose M. Possible involvement of interleukin-18 in the pathology of hepatobiliary adverse effects related to treatment with ceritinib. *BMC Cancer* 2018; 18: 995
210. Yamada M, Ichinose M. The Cholinergic Pathways in Inflammation: A Potential Pharmacotherapeutic Target for COPD. *Front Pharmacol* 2018; 9: 1426
211. Igarashi A, Fukuchi Y, Hirata K, Ichinose M, Nagai A, Nishimura M, Yoshisue H, Ohara K, Gruenberger JB. COPD uncovered: a cross-sectional study to assess the socioeconomic burden of COPD in Japan. *Int J Chron Obstruct Pulmon Dis* 2018; 13: 2629-2641
212. Gamo S, Tamada T, Murakami K, Muramatsu S, Aritake H, Nara M, Kazama I, Okazaki T, Sugiura H, Ichinose M. TLR7 agonist attenuates acetylcholine-induced, Ca<sup>2+</sup>-dependent ionic currents in swine tracheal submucosal gland cells. *Exp Physiol* 2018; 103: 1543-1559
213. Ichinose M, Nishimura M, Akimoto M, Kurotori Y, Zhao Y, de la Hoz A, Mishima M. Tiotropium/Olodaterol versus tiotropium in Japanese patients with COPD: results from the DYNAGITO study. *Int J Chron Obstruct Pulmon Dis* 2018; 13: 2147-2156
214. Tsukita Y, Okazaki T, Ebihara S, Komatsu R, Nihei M, Kobayashi M, Hirano T, Sugiura H, Tamada T, Tanaka N, Sato Y, Yagita H, Ichinose M. Beneficial effects of sunitinib on tumor microenvironment and immunotherapy targeting death receptor5. *Oncoimmunology* 2018; 8: e1543526
- 2019 年**
215. Miyauchi E, Matsuda T, Kiyotani K, Low SK, Hsu YW, Tsukita Y, Ichinose M, Sakurada A, Okada Y, Saito R, Nakamura Y. Significant differences in T cell receptor repertoires in lung adenocarcinomas with and without epidermal growth factor receptor mutations. *Cancer Sci* 2019; 110: 867-874
216. Hirano T, Matsunaga K, Hamada K, Uehara S, Suetake R, Yamaji Y, Oishi K, Asami M, Edakuni N, Ogawa H, Ichinose M. Combination of assist use of short-acting beta-2 agonists inhalation and guidance based on patient-specific restrictions in daily behavior: Impact on physical activity of Japanese patients with chronic obstructive pulmonary disease. *Respir Investig* 2019; pii: S2212-5345(18)30108-4
217. Tsukita Y, Fujino N, Miyauchi E, Saito R, Fujishima F, Itakura K, Kyogoku Y, Okutomo K, Yamada M, Okazaki T, Sugiura H, Inoue A, Okada Y, Ichinose M. Axl kinase drives immune checkpoint and chemokine signalling pathways in lung adenocarcinomas. *Mol Cancer* 2019; 18: 24
218. Minakata Y, Motegi T, Ueki J, Gon Y, Nakamura S, Anzai Tatsuhiko, Hirata K, Ichinose M. Effect of tiotropium/olodaterol on sedentary and analysis of the VESUTO® study. *Int J Chron Obstruct Pulmon Dis* 2019; 14: 1789-1801

219. Ishizawa K, Yamanaka M, Saiki Y, Miyauchi E, Fukushige S, Akaishi T, Asao A, Mimori T, Saito R, Tojo Y, Yamashita R, Abe M, Sakurada A, Pham NA, Li M, Okada Y1, Ishii T, Ishii N, Kobayashi S, Nagasaki M, Ichinose M, Tsao MS, Horii A. CD45+CD326+ Cells are predictive of poor prognosis in Non-Small Cell Lung Cancer patients. *Clin Cancer Res* 2019; pii: clincanres.0545.2019.
220. Machida K, Kawayama T, Kinoshita M, Ichinose M, Tsuada T, Takata S, Koto H, Yoshida M, Ashihara Y, Kawashima M, Suna H, Inoue H. Imidafenacin, An Orally Active Muscarinic Receptor Antagonist, Improves Pulmonary Function In Patients With Chronic Obstructive Pulmonary Disease: A Multicenter, Randomized, Double-Blind, Placebo-Controlled 3×3 Crossover Phase II Trial. *Int J Chron Obstruct Pulmon Dis* 2019;14 2175-2184
221. Takei Y, Yamada M, Saito K, Kameyama Y, Sugiura H, Makiguchi T, Fujino N, Koarai A, Toyama H, Saito K, Ejima Y, Kawazoe Y, Kudo D, Kushimoto S, Yamauchi M, Ichinose M. Increase in circulating ACE-positive endothelial microparticles during acute lung injury. *Eur Respir J* 2019; 54(4)
222. Fujino N, Brand OJ, Morgan DJ, Fujimori T, Grabiec AM, Jagger CP, Maciewicz RA, Yamada M, Itakura K, Sugiura H, Ichinose M, Hussell T. Sensing of apoptotic cells through Axl causes lung basal cell proliferation in inflammatory diseases. *J Exp Med* 2019; 216: 2184-2201
223. Kyogoku Y, Sugiura H, Ichikawa T, Numakura T, Koarai A, Yamada M, Fujino N, Tojo Y, Onodera K, Tanaka R, Sato K, Sano H, Yamanaka S, Itakura K, Mitsune A, Tamada T, Akaike T, Ichinose M. Nitrosative stress in patients with asthma-chronic obstructive pulmonary disease overlap. *J Allergy Clin Immunol* 2019; 144: 972-983
224. Tsukita Y, Inoue A, Sugawara S, Kuyama S, Nakagawa T, Harada D, Tanaka H, Watanabe K, Mori Y, Harada T, Hino T, Fujii M, Ichinose M. Phase II study of S-1 in patients with previously-treated invasive thymoma and thymic carcinoma: North Japan lung cancer study group trial 1203. *Lung Cancer* 2019; 139:89-93.
225. Ichinose M, Fukushima Y, Inoue Y, Hataji O, Ferguson TG, Rabe FB, Hayashi N, Okada H, Takikawa M, Bourne E, Ballal S, DeAngelis K, Aurivillius M, Reisner C, Dorinsky P. Long-Term Safety and Efficacy of Budesonide/Glycopyrrolate/Formoterol Fumarate Metered Dose Inhaler Formulated Using Co-Suspension Delivery Technology in Japanese Patients with COPD. *Int J Chron Obstruct Pulmon Dis* 2019; 14 2993–3002
226. Ichinose M, Fukushima Y, Inoue Y, Hataji O, Ferguson TG, Rabe FB, Hayashi N, Okada H, Takikawa M, Bourne E, Ballal S, DeAngelis K, Aurivillius M, Dorinsky P, Reisner C. Efficacy and Safety of Budesonide/Glycopyrrolate/ Formoterol Fumarate Metered Dose Inhaler Formulated Using Co-Suspension Delivery Technology in Japanese Patients with COPD: A Subgroup Analysis of the KRONOS Study. *Int J Chron Obstruct Pulmon Dis* 2019; 14 2979–2991
227. Asano K, Sagara H, Ichinose M, Hirata M, Nakajima A, Ortega H, Tohda Y. A Phase 2a Study of DP2 antagonist GB001 for Asthma. *J Allergy Clin Immunol Pract* 2019 Nov 26. pii: S2213-2198(19)30955-9. Doi: 10.1016/j.jaip.2019.11.016. [Epub ahead of print]
228. Himori N, Ogawa H, Ichinose M, Nakazawa T. CPAP therapy reduces oxidative stress in patients with glaucoma and OSAS and improves the visual field. *Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol* 2019 Dec 14. Doi: 10.1007/s00417-019-04483-z

2020 年



229. Makiguchi T, Koarai A, Inoue C, Aoyama Y, Hirano T, Ohe T, Ichikawa T, Shishikura Y, Komuro H, Tsukita Y, Tode N, Numakura T, Tsutomu Saito T, Sato T, Mitsuhashi M, Tamada T, Sugiura H, Ichinose M. A case of localized tracheobronchial relapsing polychondritis with positive matrilin-1 staining. *BMC Rheumatology* 2020 4:1. Doi: 10.1186/s41927-019-0103-6
230. Tanno A, Fujino N, Yamada M, Sugiura H, Hirano T, Tanaka R, Sano H, Suzuki S, Okada Y, Ichinose M. Decreased expression of a phagocytic receptor Siglec-1 on alveolar macrophages in chronic obstructive pulmonary disease. *Respiratory Research* 2020 21:30. Doi: 10.1186/s12931-020-1297-2

## II - ii 和文原著

### 1982年

1. 松本 登、井上洋西、石井宗彦、一ノ瀬正和、佐々木英忠、滝嶋 任. 非アドレナリン作動性抑制神経の気道における作用部位. *呼吸*, 1982; 1: 288-290

### 1986年

2. 一ノ瀬正和、三浦元彦、屋富祖夏樹、野上裕子、井上洋西、滝嶋 任. LTD4によるネコ気道収縮に対するKC-404の抑制効果. *呼吸*. 1986; 5: 110-112
3. 井上洋西、一ノ瀬正和、三浦元彦、木村啓二、畑岡 勲、無江季次、滝嶋 任. 気管支喘息に対する抗コリン性気管支拡張剤臭化オキシトロピウム of 初期臨床試験. *Therapeutic Research*, 1986; 56: 1175-1187
4. 杉田京一、嘉山考正、大和田健司、一ノ瀬正和、高杉良吉、石崎 敬. 頭蓋骨巨大腫瘍を形成した多発性骨髄腫の1例. *BRAIN and NERVE*, 1986; 38: 625-629

### 1987年

5. 滝嶋 任、無江季次、井上洋西、一ノ瀬正和、三浦元彦、木村啓二. 気管支喘息に対する抗コリン性気管支拡張剤臭化オキシトロピウムの用量検討試験. *新薬と臨床*, 1987; 36: 11-20

### 1988年

6. 一ノ瀬正和、三浦元彦、木村啓二、勝又宇一郎、滝嶋 任. ニプラジロールの気道内 $\beta$  blockade作用. *新薬と臨床*, 1988; 37: 26-32
7. 畑岡 勲、一ノ瀬正和、三浦元彦、飛田 渉、井上洋西、滝嶋 任. 換気不均等分布動物モデルにおけるアルミトリンの効果の検討. *呼吸*, 1988; 7: 741-745

### 1993年

8. 一ノ瀬正和、中嶋夏子、高橋識至、山内淑行、井上洋西、滝嶋 任. 喘息患者のブラジキニン誘発気道収縮に対するタキキニン受容体拮抗剤の抑制効果. *ランセット日本語版*, 1993; 3: 18-21

### 2001年

9. 一ノ瀬正和、岡部慎一、瀧島 任、白土邦男、井上洋西、飛田 渉、蛭名昭男、木村啓二、山内広平、塚本東明、前田真作. 東北地方における慢性閉塞性肺疾患(COPD)の現状とQOLに関するアンケート調査. *医薬ジャーナル*, 2001; 37No9: 143-150

### 2003年

10. 田中寛人、上田弘樹、宮野元成、西出孝啓、西出 巖、宗 正敏、湯川 進、一ノ瀬正和. 維持透析患者の肝細胞癌治療の検討. *臨床と研究*, 2003; 80: 99-100

### 2004年

11. 田中寛人、上田弘樹、宮野元成、一ノ瀬正和. 特殊型C型肝炎の臨床特論、透析患にお

けるC型慢性肝炎. 日本臨牀, 2004; 62: 645-648

12. 松永和人、平野綱彦、中西正典、山縣俊之、南方良章、上嶋千史、黒田真由、池田剛司、中西宏公、西本武司、一ノ瀬正和. 急性喘息治療後の再発作に対するロイコトリエン受容体拮抗薬の有用性に関する検討. 呼吸, 2004; 23: S37-S39
13. 池田剛司、黒田真由、大林正樹、南方良章、一ノ瀬正和. 外来気管支喘息患者に対する自覚症状アンケート調査およびブランルカストによる長期自覚症状改善作用の検討. 呼吸, 2004; 23: 726-733
14. 坂頭美智子、Miguel A. Trujillo、Shi-Wen Jiang、刀禰佳典、大谷晴久、一ノ瀬正和、湯川進、Norman L. Eberhardt. ヒト成長ホルモン遺伝子 3'-非翻訳領域における甲状腺ホルモン依存性発現制御領域の解析. 和歌山医学, 2004; 55: 200-206
15. 平野浩子、刀禰佳典、大谷晴久、大矢昌樹、木村圭吾、雑賀保至、藤井良一、宗正敏、一ノ瀬正和、湯川進. 血液透析患者の血中総アスコルビン酸濃度およびアスコルビン酸代謝産物の検討. 日本腎臓学会誌, 2004; 46: 426-433
16. 山縣俊之、平野綱彦、中西正典、山縣優子、西本武司、松永和人、南方良章、一ノ瀬正和. 肺胞マクロファージのサイトカイン産生に及ぼす間欠的陽圧負荷の効果. 呼吸, 2004; 23: S33-S36

#### 2005年

17. 山縣俊之、郷田三賀子、平野綱彦、福井浩二、山縣優子、上嶋千史、中西正典、松永和人、南方良章、一ノ瀬正和. テオフィリンのCOPD気道炎症に対する抗炎症効果. 呼吸, 2005; 24: 35-36
18. 平野綱彦、上嶋千史、中西正典、山縣優子、松永和人、山縣俊之、南方良章、一ノ瀬正和. 安定期COPD患者の肺機能に及ぼすサルメテロールとツロブテロール(貼付)の効果の比較検討. 呼吸, 2005; 24: 36-37
19. 濱上寛子、上田弘樹、喜田洋平、田中寛人、中尾隆太郎、古田陽子、一ノ瀬正和. 経皮的針吸引術(PNA)が有効であった化膿性肝膿瘍の2例. 臨床と研究, 2005; 82: 105-108
20. 喜田洋平、佐原裕之、待井隆志、上田弘樹、一ノ瀬正和. 肝硬変患者における尿中尿素窒素を用いた蛋白摂取量の推定の有用性. 肝臓, 2005; 5: 294
21. 濱上寛子、上田弘樹、田中寛人、喜田洋平、郷田三賀子、一ノ瀬正和、岩橋誠、桐山茂久. 腸管壊死との鑑別を要したアルコール性乳酸アシドーシスの1救命例. 救急医学, 2005; 29: 1901-1905

#### 2006年

22. 松永和人、柳澤悟、市川朋宏、上嶋千史、赤松啓一郎、平野綱彦、中西正典、山縣俊之、南方良章、一ノ瀬正和. 気道過敏性の簡便な臨床指標の検討. 呼吸, 2006; 25: 41-42
23. 南方良章、柳澤悟、市川朋宏、上嶋千史、赤松啓一郎、平野綱彦、中西正典、松永和人、山縣俊之、一ノ瀬正和. COPD気道における微小血管透過性亢進. 呼吸, 2006; 25: 45-46
24. 郷田三賀子、平野綱彦、福井浩二、山縣俊之、山縣優子、中西正典、上嶋千史、松永和人、南方良章、一ノ瀬正和. COPD患者に対する新しいテオフィリンの効果の検討: 抗炎症作用とその機序. 和歌山医学, 2006; 57: 8-13
25. 川山智隆、南方良章、津田徹、木下正治、松永和人、山縣俊之、一ノ瀬正和、相澤久道. 日本人を対象としたCOPD質問表の有用性についての検討. 呼吸, 2006; 25: 1083-1086

#### 2007年

26. 大林浩幸、足立 満、一ノ瀬正和、大田 健、國分二三男、佐野靖之、田村 弦、東田有智、平田一人、安場広高. Hydrofluoalukan-Beclomethasone Dipropionate と Fluticasone Propionate の喘息気道炎症と健康関連 QOL 改善に対する多施設無作為比較試験結果. アレルギー、2007; 56: 577-586
27. 福地義之助、相澤久道、一ノ瀬正和、三嶋理晃、久保恵嗣、永井厚志、長瀬隆英、高橋和久、栗山喬之、三上正志、山谷睦雄、西村正治. COPD の増悪に対するカルボシステインの臨床効果(PEACE Study). 呼吸、2007; 26: 955-963
28. 松永和人、柳澤 悟、市川朋宏、上嶋千史、赤松啓一郎、平野綱彦、中西正典、山縣俊之、南方良章、一ノ瀬正和. 気管支喘息における呼気凝縮液中の炎症関連物質発現と呼吸生理パラメーターとの関連. 呼吸、2007; 26: 2-4
29. 一ノ瀬正和、相澤久道、石坂彰敏、永井厚志、福地義之助、Hana Muellerova、Martin Crane. 日本における慢性閉塞性肺疾患(COPD)患者の大規模電話実態調査-Confronting COPD Japan Survey-. 日呼吸会誌、2007; 45: 927-935

#### 2008 年

30. 一ノ瀬正和. 本邦における喘息コントロールおよび治療の状況～喘息患者を対象としたインターネット調査～. 医薬ジャーナル、2008; 44: 119-129
31. 井上博雅、相澤久道、石坂彰敏、一ノ瀬正和、植木 純、大田 健、大森久光、小川浩正、金澤 實、川山智隆、黒澤 一、小林弘祐、榊原博樹、玉置 淳、陳 和夫、梅 博久、南須原康行、飛田 涉、藤田圭作、南方良章、工藤翔二. 生活習慣病対策における COPD の重要性-「特定健康診査・特定保健指導」への提言-. 日呼吸会誌、2008; 46: 583-591
32. 田中寛人、上田弘樹、宮野元成、一ノ瀬正和. 透析患者診療のための診断基準・重症度スコア-慢性肝炎(C 型). 臨床透析、2008; 24: 257-258
33. 一ノ瀬正和、三嶋理晃、増子寿久、永井厚志. COPD 患者におけるサルメテロールからサルメテロール/フルチカゾンプロピオン酸エステル配合剤(SFC)への切り替えによる有効性と安全性の臨床的検討. 呼吸、2008; 27: 1091-1099
34. 三嶋理晃、一ノ瀬正和、増子寿久、永井厚志. COPD 患者におけるサルメテロール/フルチカゾンプロピオン酸エステル配合剤(SFC)の長期投与試験. 呼吸、2008; 27: 1179-1191
35. 一ノ瀬正和. 本邦における喘息コントロールおよび治療の状況 ～喘息患者を対象としたインターネット調査～. 医薬ジャーナル、2008; 44: 119-129

#### 2009 年

36. 田中里江、平野綱彦、一ノ瀬正和. 気管支喘息における気道炎症マーカー. 医療ジャーナル、2009; 45: 77-81
37. 藤野文崇、南方良章、小荒井晃、赤松啓一郎、一ノ瀬正和. COPD 患者における運動耐容能と薬剤による改善効果の規定因子に関する検討. 呼吸、2009; 28: 653-661
38. 平野綱彦、功力亜美、一ノ瀬正和. 新高速応答呼気一酸化窒素測定機器 NA-623N と NIOX-MINO との比較. 呼吸、2009; 28: 753-758

#### 2012 年

39. 一ノ瀬正和、相澤久道、秋山一男、足立満、石原享介、大田健、佐野靖之、下田照文、田村弦、東田有智、永田眞、新実彰男、宮武明彦. 呼気一酸化窒素を指標とした気管支喘息管理:多施設研究による有用性と限界の検討. アレルギー・免疫、2012; 19: 78-87
40. 一ノ瀬正和. 慢性閉塞性肺疾患(COPD)患者の自覚症状と治療の現状—日本人患者を対象としたインターネット調査—. PROGRESS IN MEDICINE、2012; 32: 169-175

### 2013年

41. 一ノ瀬正和、戸蒔雅文、佐野靖之、栃木隆男、佐宗春美、大道光秀、田村弦、永田真、足立満、大田健. プデソニド/ホルモテロール配合剤の軽症および中等症持続型の気管支喘息患者におけるコントロールと呼気一酸化窒素濃度に対する効果. アレルギー・免疫、2013; 20: 114-126
42. 一ノ瀬正和、清末有宏、松岡緑郎、茂木浩一. 慢性閉塞性肺疾患におけるホルモテロール長期投与の安全性および有効性の検討: 第III相試験. 呼吸、2013; 32: 648-659
43. 一ノ瀬正和. 慢性閉塞性肺疾患の新治療法開発を目指して. 東北医誌、2013; 125: 249-251
44. 古川加奈子、前島悦子、一ノ瀬正和. エタネルセプト投与下で妊娠・出産した関節リウマチの一例. 日本臨床免疫学会会誌、2013; 36: 47-51
45. 南方良章、早乙女徹、橋本賢一、一ノ瀬正和. 日本人のCOPD患者におけるフルチカゾンフランカルボン酸エステル/ビランテロール配合剤(FF/VI)の長期投与試験. 呼吸、2013; 32:956-967

### 2014年

46. 一ノ瀬正和. 新規喘息長期管理薬チオトロピウム: 作用機序と臨床効果. 呼吸、2014; 33: 1133-1140
47. 一ノ瀬正和. 欧州呼吸器学会(ERS)国際年次総会 2014 印象記. 呼吸、2014; 33: 1271-1273
48. 一ノ瀬正和. 新規喘息治療: 吸入ステロイド/ $\beta_2$  刺激薬配合薬、抗コリン薬. 呼吸と循環、2014; 62: 1155-1160
49. 松永和人、一ノ瀬正和、亀井雅、坂本幸裕、早田敦司、赤松啓一郎、平野綱彦. COPDにおけるmMRCスコアと閉塞性換気障害による病期分類との関連性. 呼吸、2014; 33: 173-178
50. 村上康司、玉田勉、奈良正之、光石陽一郎、村松聡士、海老名雅仁、一ノ瀬 正和. 診断基準改訂前後のサルコイドーシスの臨床的特徴と予後予測因子としてのsIL-2R変化率の検討. 日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会雑誌、2014; 33: 83-89
51. 一ノ瀬正和、福地義之助、長谷川紗由美. 日本における慢性閉塞性肺疾患(COPD)患者自覚症状および治療実態調査. 呼吸、2014; 33: 813-823

### 2016年

52. 一ノ瀬正和. 喘息予防・管理ガイドライン2015のポイント. 日本薬剤師会雑誌、2016; 68: 13-27
53. 一ノ瀬正和. 喘息とCOPDのオーバーラップの診断と治療の重要性. 新薬と臨床、2016; 65: 27-31
54. 一ノ瀬正和. 喘息予防・管理ガイドライン2015—GINA2015との比較. 日本臨床、2016; 74: 1609-1614
55. 小野寺克洋、玉田勉、村松聡士、村上康司、奈良正之、小松理世、小林誠、山田充啓、杉浦久敏、一ノ瀬正和. 発熱、多関節痛を伴った急性サルコイドーシスの1例. 日本内科学会誌、2016; 105: 540-546
56. 小荒井晃、一ノ瀬正和. バイオマーカーによるCOPD治療の展開. THE LUNG perspectives、2016; 24: 26-30
57. 突田容子、山田充啓、大江崇、伊藤俊輔、小林誠、玉井ときわ、小荒井晃、玉田勉、杉浦

久敏、一ノ瀬正和. 今月の症例 ARDSを合併したChlamydia pneumoniae感染症の1例. 日本内科学会誌、2016; 105: 2426-2431

#### 2017年

58. 山田充啓、平野泰三、佐藤慶、高橋秀穂、村上康司、玉井ときわ、玉田勉、杉浦久敏、佐藤直実、齋藤涼子、一ノ瀬正和. 好酸球性肺炎の像を呈し全身播種に至った肺接合菌症の1例. THE LUNG perspectives 2017; 24: 338-345
59. 一ノ瀬正和、菅裕徳、黒木大輔. 喘息治療の新しい選択枝チオトロピウム ソフトミスト製剤の臨床開発. Therapeutic Research、2017; 38: 1205-1216
60. 佐野寛仁、山田充啓、村上康司、平野泰三、玉田勉、杉浦久敏、舘田一博、一ノ瀬正和. Legionella gormanii感染が疑われた尿中抗原陰性喀痰PCR陽性のレジオネラ症の1例. 日本内科学会雑誌、2017; 106: 2620-2624
61. 玉田勉、一ノ瀬正和. 特集 喘息とCOPDのオーバーラップ症候群—病態と治療 ACOSの疾患概念. アレルギーの臨床、2017; 37: 17-21
62. 板倉康司、平野泰三、宮内栄作、井上彰、杉浦久敏、一ノ瀬正和. 自然崩壊型腫瘍崩壊症候群を合併した肺扁平上皮癌の1例. 日本呼吸器学会雑誌、2017; 6: 200-204
63. 平野泰三、山田充啓、村上康司、佐藤慶、玉井ときわ、高橋秀穂、岡崎達馬、杉浦久敏、一ノ瀬正和. 好酸球性肺炎の像を呈した肺接合菌症の1例. 日本内科学会雑誌、2017; 106: 1006-1001
64. 柳澤悟、一ノ瀬正和. Precision Medicineのための難治性喘息の病態と治療 II難治に関する因子 4.喫煙, COPD合併. アレルギー・免疫、2017; 24: 66-72
65. 一ノ瀬正和. 喘息予防・管理ガイドライン2015. アレルギー、2017; 66: 77-81

#### 2018年

66. 一ノ瀬正和、慢性閉塞性肺疾患(COPD)の先制医療. 診断と治療、2018;106:84-89
67. 大江崇、平野泰三、小荒井晃、市川朋宏、佐藤輝幸、一ノ瀬正和. スケドスポリウム属によるステント腐生により喘息様症状を呈した1例. 日呼吸誌、2018; 7: 187-191
68. 一ノ瀬正和、概念・定義:COPD at a glance. 最新医学別冊 診断と治療のABC、2018; 140:12-19
69. 一ノ瀬正和、COPD(慢性閉塞性肺疾患)診断と治療のためのガイドライン2018. 日本内科学会雑誌、2018;107:2306-2309

#### 2019年

70. 一ノ瀬正和、喘息診療をめぐる話題. 日本内科学会雑誌、2019;108:1111-1113
71. 一ノ瀬正和、室繁郎、權寧博、茂木孝、杉浦久敏、佐藤晋、田代尚樹、陣内辰徳、永澤美和、本邦におけるCOPD患者の治療、日常生活への影響(支障)、治療状況に関する研究—既存インターネットアンケート調査の事後的分析—;DREAM COPD試験. PharmaMedica、2019;37:77-82

Ⅲ 総説・解説  
Ⅲ－i 英文総説

1989 年

1. Barnes PJ, Ichinose M. H3-receptors in airways. *Trends Pharmacol Sci* 1989; 10: 264

2001 年

2. Ichinose M, Sugiura H, Hattori T, Shirato K. Role of reactive nitrogen species in pathophysiology of inflammatory airway diseases. *Recent Res Devel Allergy Clin Immunol* 2001; 2: 161-167

2003 年

3. Ichinose M. Inflammatory mechanisms in bronchial asthma and COPD. *Tohoku J Exp Med* 2003; 200: 1-6

2004 年

4. Ichinose M, Barnes PJ. Cytokine-directed therapy in asthma. *Curr Drug targets Inflamm Allergy* 2004; 3: 263-269

2006 年

5. Yamagata T, Ichinose M. Agents against cytokine synthesis or receptors. *Eur J Pharmacol* 2006; 533: 289-301

2008 年

6. Ichinose M. Advances in pharmacotherapy for COPD. *Intern Med* 2007; 46: 81-84
7. Sugiura H, Ichinose M. Oxidative and nitrative stress in bronchial asthma. *Antioxid Redox Signal* 2008; 10: 785-798

2009 年

8. Ichinose M. Differences of inflammatory mechanisms in asthma and COPD. *Allergol Int* 2009; 58: 307-313

2011 年

9. Sugiura H, Ichinose M. Nitrative stress in inflammatory lung disease. *Nitric Oxide* 2011; 25: 138-144
10. Ohta K, Yamaguchi M, Akiyama K, Adachi M, Ichinose M, Takahashi K, Nishimuta T, Morikawa A and Nishima S. Japanese Guideline for Adult Asthma. *Allergol Int* 2011; 60: 115-145

2012 年

11. Ichinose M. New COPD assessment tool: The last work of professor Aizawa. *Respir Investig* 2012; 50: 33
12. Tamura G, Ichinose M, Fukuchi Y, Miyamoto T: Transdermal Tulobuterol Patch, a Long-Acting  $\beta_2$ -Agonist. *Allergol Int* 2012; 61: 219-229

2014 年

13. Ohta K, Ichinose M, Nagase H, Yamaguchi M, Sugiura H, Tohda Y, Yamauchi K, Adachi M, Akiyama K. Japanese Guideline for Adult Asthma 2014. *Allergol Int* 2014; 63: 293-333

2015 年

14. Yamada Y, Ichinose M. Cutting edge of COPD therapy: current pharmacological therapy and future direction. *COPD Res and Practice* 2015; 1; 5

15. Ohkouchi S, Ono M, Kobayashi M, Hirano T, Tojo Y, Hisata S, Ichinose M, Irokawa T, Ogawa H, Kurosawa H. Myriad functions of stanniocalcin-1 (STC1) cover multiple therapeutic targets in the complicated pathogenesis of idiopathic pulmonary fibrosis (IPF). *Clin Med Insights Circ Respir Pulm Med* 2015; 9: 91-96

#### 2016年

16. Yamada M, Fujino N, Ichinose M. Inflammatory responses in the initiation of lung repair and regeneration: their role in stimulating lung resident stem cells. *Inflammation and Regeneration* 2016; 36: 15
17. Ichinose M. Assessment of the need for nitric oxide measurement in patients with respiratory diseases. *Respir Investig* 2016; 54: 137-138.

#### 2017年

18. Ichinose M, Sugiura H, Nagase H, Yamaguchi M, Inoue H, Sagara H, Tamaoki J, Tohda Y, Munakata M, Yamauchi K, Ohta K. Japanese Society of Allergology. Japanese guidelines for adult asthma 2017. *Allergol Int* 2017; 66(2): 163-189

#### 2018年

19. Yamada M, Ichinose M. The cholinergic anti-inflammatory pathway: an innovative treatment strategy for respiratory diseases and their comorbidities. *Curr Opin Pharmacol* 2018; 40: 18-25
20. Yanagisawa S, Ichinose M. Definition and diagnosis of asthma-COPD overlap (ACO). *Allergol Int* 2018; 67: 172-178
21. Koarai A, Ichinose M. Possible involvement of acetylcholine-mediated inflammation in airway diseases. *Allergol Int* 2018; 67: 460-466

### Ⅲ－ⅱ 和文総説

#### 1986年

1. 一ノ瀬正和、井上洋西、滝嶋 任. 気道過敏性亢進: 病態・治療をめぐる最近の知見. *医学のあゆみ*, 1986; 138: 73-76

#### 1987年

2. 一ノ瀬正和、井上洋西. 非アドレナリン作動性抑制神経の機能異常. *日本臨床*, 1987; 45: 57-61

#### 1989年

3. PJ Barnes、一ノ瀬正和. 神経ペプチドと喘息. *呼吸*, 1989; 8: 1260-1268

#### 1990年

4. 一ノ瀬正和. ヒスタミン H3 レセプター. *呼吸*, 1990; 9: 684-690
5. 一ノ瀬正和、滝嶋 任. 気道過敏性と神経ペプチド. *臨床科学*, 1990; 26: 1248-1253
6. 一ノ瀬正和、滝嶋 任. 気管支喘息診療の進歩: 気道過敏性の意義と検出方法. *臨床成人病*, 1990; 20: 29-32

#### 1991年

7. 坂井也彦、一ノ瀬正和、渡辺建彦. 内臓感覚と運動の薬理. *ブレインサイエンス*, 1991; 2: 49-54
8. 一ノ瀬正和、滝嶋 任、PJ Barnes. ブラジキニンと気道. *日本小児呼吸器疾患学雑誌*, 1991; 2: 40-43

9. 一ノ瀬正和. 内因性神経ペプチドと気道のアレルギー反応. 第41回日本アレルギー学会シンポジウム記録集、1991: 5-6

#### 1993年

10. 富岡久夫、今野昭義、一ノ瀬正和. アレルギー性疾患の治療の現状と抗ヒスタミン剤. THERAPEUTIC RESEARCH NEWSLETTER、1993: 1-4
11. 一ノ瀬正和、滝嶋 任. 神経原性気道炎症と気管支喘息: ブラジキニンは喘息のメディエーターとして重要か. 呼吸、1993; 12: 1407-1419
12. 一ノ瀬正和、白土邦男. ACE阻害剤の臨床応用: 肺疾患. 循環科学、1993; 13: 1026-1029
13. 中嶋夏子、一ノ瀬正和. 神経ペプチドと呼吸器疾患. 呼吸、1993; 12: 1442-1451
14. PJ Barnes、一ノ瀬正和. 炎症性メディエーターと喘息: 研究の今日と未来. 呼吸、1993; 12: 1538-1546
15. 一ノ瀬正和 他. 神経原性炎症. 日本胸部疾患学会雑誌、1993; 31: 172-175

#### 1994年

16. 一ノ瀬正和. 気道炎症と自律神経. 気道過敏性研究、1994: 1-7
17. 一ノ瀬正和. ニューロペプチドと咳. Allergy Update、1994; 6: 7
18. 一ノ瀬正和、三浦元彦、高橋識至、山内淑行、中嶋夏子、戸蒔雅文、井上洋西、滝嶋任、白土邦男. 神経原性炎症. 日本胸部疾患学会誌、1994; 31: 172-175
19. 一ノ瀬正和. ブラジキニン. 呼吸、1994; 13: 791-796
20. 一ノ瀬正和、滝嶋 任. 気管支喘息と神経原性炎症. 免疫薬理、1994; 12: 47-51
21. 一ノ瀬正和. アレルギーと神経・精神: 喘息と自律神経. アレルギーの領域、1994; 1: 24-29
22. 一ノ瀬正和. 気道過敏性と神経原性炎症. Mebio、1994; 11: 29-35

#### 1995年

23. 一ノ瀬正和. 気管支喘息の気道病変: 経系の異常. The LUNG Perspective、1995; 3: 56-60
24. 一ノ瀬正和. 各種メディエーターへの拮抗物質の治療効果. 呼吸と循環、1995; 43: 137-146
25. 一ノ瀬正和. 妊婦に対する気管支喘息の治療. The LUNG Perspective、1995; 3: 110-112
26. 一ノ瀬正和. アレルギーと化学伝達物質: アレルギーとブラジキニン. タキキニン、アレルギーの領域、1995; 2: 53-57
27. 一ノ瀬正和. 喘息の病態に関する最近の知見: NOと気管支喘息. 内科、1995; 76: 626-629
28. 一ノ瀬正和. NOによる気道炎症の修飾. 第45回日本アレルギー学会総会シンポジウムIV記録集、1995: 23-28

#### 1996年

29. 一ノ瀬正和. 下気道: 喘息患者はなぜ気道過敏性が亢進しているか. アレルギーの領域、



1996; 3: 31-37

30. 一ノ瀬正和、池田 淳、白土邦男. 合併症を伴う心不全の管理と治療: 呼吸不全. メディチーナ、1996; 33: 962-964
31. 一ノ瀬正和. アレルギー性気道反応と神経系の相互作用. 第 13 回免疫薬物療法研究会記録集、1996: 25-44
32. 一ノ瀬正和. 下気道におけるヒスタミン受容体のサブタイプと機能. アレルギー科、1996; 2: 51-60
33. 足立 満、一ノ瀬正和、松浦崇行、本島新司. 誘発痰による気道炎症の評価をめぐって. 呼吸、1996; 15: 1094-1104
34. 一ノ瀬正和. アレルギーと神経ペプチド. 第 14 回免疫薬物療法研究会記録集、1996: 36-50

#### 1997 年

35. 高橋識至、一ノ瀬正和. ガス交換障害. 検査と技術、1997; 25: 177-181
36. 一ノ瀬正和、白土邦男. 気管支喘息の病態と NO. アレルギー科、1997; 3: 374-379
37. 真野健次、高木健三、高橋 清、一ノ瀬正和. テオフィリンの抗炎症作用. Medical Tribune、1997; 30: 13-16
38. 一ノ瀬正和. 肺の神経支配と疾患. 呼吸、1997; 16: 1250-1258
39. 三浦元彦、一ノ瀬正和、白土邦男. 最新のアレルギー研究: NO の関与とそのコントロール. Molecular Medicine、1997; 34: 517-523
40. 一ノ瀬正和、大内 譲、白土邦男. ヒスタミン受容体. 呼吸と循環、1997; 45: 1179-1185
41. 一ノ瀬正和. 喘息モデルによる血管透過性亢進とその制御. 日本胸部疾患学会雑誌、1997; 35: 244-248

#### 1998 年

42. 一ノ瀬正和. 喘息と慢性閉塞性肺疾患. 治療学、1998; 32: 125
43. 一ノ瀬正和. 下気道の神経性調節. 耳鼻免疫アレルギー、1998; 16: 44-45
44. 一ノ瀬正和. ストレスと神経ペプチド. アレルギーの領域、1998; 5: 21-26
45. 遠藤直美、一ノ瀬正和、白土邦男. 気管支におけるアレルギーと神経の相互作用. アレルギー科、1998; 5: 41-49
46. 一ノ瀬正和. 気道過敏性の分子医学. 現代医療、1998; 30: 117-123
47. 一ノ瀬正和. 総説: 気管支喘息と自律神経機能障害. 日本薬理学会誌、1998; 111: 195-203
48. 遠藤直美、一ノ瀬正和、白土邦男. 成人気管支喘息と知覚過敏. アレルギーの領域、1998; 5: 17-22

#### 1999 年

49. 一ノ瀬正和. 気管支喘息の病態への神経系の関与. 日本呼吸器学会雑誌、1999; 37: 3-9
50. 杉浦久敏、一ノ瀬正和. 気管支喘息とレドックス. 呼吸と循環、1999; 47: 135-142

51. P.J. Barnes、一ノ瀬正和.  $\beta_2$  刺激薬をめぐる最近の話題. *International Review of Asthma*. 1999; 1: 11-31

52. 一ノ瀬正和. 気道過敏性と気管支喘息の発症. *アレルギー科*, 1999; 8: 468-473

#### 2000年

53. 小荒井晃、一ノ瀬正和、白土邦男. 一般呼吸機能試験とアレルギー性呼吸器疾患との関連: 成人. *アレルギー科*, 2000; 9(suppl.1): 247-253

54. 杉浦久敏、一ノ瀬正和、白土邦男. Fenspiride. *呼吸*, 2000; 19: 159-162

55. 小荒井晃、一ノ瀬正和、服部俊夫、白土邦男. 気管支喘息とタキキニン. *アレルギー科*, 2000; 9: 345-351

56. 一ノ瀬正和. 気管支拡張薬の作用機序. *アレルギー・免疫*, 2000; 77: 47-52

57. 杉浦久敏、一ノ瀬正和、服部俊夫、白土邦男. インフルエンザウイルス感染と気道過敏性亢進. *呼吸と循環*, 2000; 48: 1119-1125

58. 秋山一男、伊東祐之、一ノ瀬正和. 喘息における吸入  $\beta_2$  刺激薬の位置付けと適正使用(座談会). *日経メディカル*, 2000; 5月号; 20-23

59. 一ノ瀬正和、Peter Barnes. COPD における吸入抗コリン薬療法の実際と展望(対談録). *TER-25*, 2000

60. 三浦元彦、一ノ瀬正和. イオンチャンネルを標的とした呼吸器疾患: K チャンネル. *分子呼吸器病学*, 2000; 4: 471-477

#### 2001年

61. 一ノ瀬正和、渡辺建彦、今野昭義、古賀哲也. アレルギー疾患とヒスタミン. *Pharma Medica*, 2001; 19: 175-184

62. 山縣俊介、一ノ瀬正和. 呼気ガス分析による気道炎症の評価. *医学のあゆみ*, 2001; 198: 483-487

63. 一ノ瀬正和. COPD 薬物治療の進歩. *日医雑誌*, 2001; 126: MH-22-MH24

64. 田島直美、一ノ瀬正和. 気道過敏性と喫煙. *アレルギー科*, 2001; 12: 431-437

65. 杉浦久敏、一ノ瀬正和. COPD と新治療薬. *治療学*, 2001; 35: 53-56

66. 戸蒔雅文、一ノ瀬正和. 気道過敏性(反応性)検査. *日本臨床*, 2001; 59: 2001-2010

67. 戸蒔雅文、一ノ瀬正和. 気道過敏性の分子メカニズム. *呼吸*, 2001; 20: 1124-1129

68. 駒木裕一、一ノ瀬正和. 咳のメカニズムと病因・病態. *アレルギーの臨床*, 2001; 21: 17-22

#### 2002年

69. 一ノ瀬正和. 慢性閉塞性肺疾患(COPD)治療をめぐる話題: 薬物治療. *Medicament News*, 2002; 1718: 10-11

70. 一ノ瀬正和. COPD におけるキサンチン誘導体の役割. *Medical Practice*, 2002; 19: 631

71. 一ノ瀬正和. 新たなグローバルガイドライン GOLD の志向するもの: 薬物療法. *呼吸*, 2002; 21: 154-158

72. 杉浦久敏、一ノ瀬正和、服部俊夫. フリーラジカルと閉塞性肺疾患. 分子呼吸器病、2002; 6: 125-131
73. 杉浦久敏、一ノ瀬正和、服部俊夫. 気道炎症に対する COPD の新しい治療薬. The Lung Perspectives、2002; 10: 174-178
74. 駒木裕一、杉浦久敏、一ノ瀬正和. 慢性喘息の長期管理. アレルギーの臨床、2002; 22: 355-359
75. 戸蒔雅文、一ノ瀬正和. 去痰薬の種類とその使い分け. 呼吸器 News & Views、2002; 20: 14-16
76. 一ノ瀬正和. 吸入ステロイド薬の抗炎症効果. Pharma Medica、2002; 20: 208-210
77. 北室知巳、一ノ瀬正和. COPD: 薬物療法-現状と展望. 医薬ジャーナル、2002; 38: 118-123
78. 一ノ瀬正和. 抗コリン薬: その臨床薬理と適応・効果. 呼吸と循環、2002; 50: 805-811
79. 一ノ瀬正和. COPD の診断と治療: 現状と将来展望. 高崎医学、2002; 52: 67-71
80. 一ノ瀬正和. アレルギー相談室 Q&A: COPD 合併喘息の治療ポイント. アレルギーの臨床、2002; 22: 740
81. 駒木裕一、一ノ瀬正和. 気管支喘息との鑑別点: 炎症像の相違点. 現代医療、2002; 34: 109-113
82. 戸蒔雅文、一ノ瀬正和. 新しい気道炎症の評価法: 呼気凝縮液. 呼吸器科、2002; 1: 392-397
83. 一ノ瀬正和. COPD. 呼吸、2002; 21: 822-825
84. 一ノ瀬正和. 呼吸生理学. 呼吸、2002; 21: 851-854
85. 一ノ瀬正和. 安定期 COPD の薬物療法. 治療、2002; 84:95-100
86. 一ノ瀬正和. 気道とニューロペプチド. Allergia Trends、2002; 10:10-13
87. 後藤葉子、黒澤 一、一ノ瀬正和、上月正博. 呼吸リハビリテーションにおける作業療法の役割. COPD frontier、2002; 1: 88-93
88. 小荒井晃、一ノ瀬正和. ヒスタミン H1 拮抗薬. Medicina、2002; 39: 173-176
89. 戸蒔雅文、一ノ瀬正和. COPD と気道分泌. 医薬ジャーナル、2002; 38: 139-143

#### 2003 年

90. 駒木裕一、一ノ瀬正和. 気道過敏性と自律神経. 喘息、2003; 16: 52-57
91. 杉浦久敏、一ノ瀬正和、服部俊夫. 気管支喘息と NO. 医学の歩み、2003; 204: 684-689
92. 小川浩正、一ノ瀬正和. COPD: 増悪因子としての感染症. 呼吸器科、2003; 3: 142-145
93. 高橋 清、一ノ瀬正和、大田 健、足立 満. 高齢者喘息の病態と治療. 老年医学、2003; 41: 369-378
94. 杉浦久敏、一ノ瀬正和、服部俊夫. 各種受容体と気道過敏性. アレルギー科、2003; 14: 470-475

95. 駒木裕一、杉浦久敏、一ノ瀬正和. 臨床検査としての NO. 呼吸と循環、2003; 51: 595-602
96. 黒澤 一、上月正博、一ノ瀬正和. COPD の治療: 診療ガイドラインの作成動向. EBM ジャーナル、2003; 4: 18-23
97. 小荒井晃、一ノ瀬正和. COPD の治療選択: 抗コリン薬と  $\beta 2$  刺激薬どちらを使うか. 呼吸器科、2003; 3: 384-390
98. 駒木裕一、一ノ瀬正和. 気道炎症のバイオマーカー. THE LUNG perspective 2003; 11: 128-129
99. 北室知巳、一ノ瀬正和. COPD の薬物療法. 臨床と薬物治療、2003; 22: 642-645
100. 奈良正之、一ノ瀬正和、服部俊夫. 気道上皮透過性. アレルギー科、2003; 16: 15-20
101. 小荒井晃、一ノ瀬正和. 喘息治療薬の特徴と投与のコツ: 抗コリン薬. Medical Practice、2003; 20: 1753-1756
102. 杉浦久敏、服部俊夫、一ノ瀬正和. 難治性喘息の病態と気道炎症モニタリング. 呼吸と循環、2003; 51: 197-1202
103. 中西正典、一ノ瀬正和. 肺炎球菌性肺炎. 化学療法の領域、2003; 19: 49-53
104. 松永和人、一ノ瀬正和. 慢性閉塞性肺疾患(COPD)の薬物療法. 呼吸と循環、2003; 51: 1245-1251
105. 一ノ瀬正和. 気道・肺胞炎症機序の解明から慢性閉塞性肺疾の新しい治療へ. 診断と治療、2003; 91: 2271-2276
106. 南方良章、山縣俊之、松永和人、中西正典、一ノ瀬正和. 難治性喘息の診断と治療のポイント. 日本医事新報、2003; 4237: 1-7
107. 一ノ瀬正和. バイオマーカー開発から COPD の新治療展開へ. 呼吸、2003; 22: 1233-1245
108. 一ノ瀬正和. 慢性閉塞性肺疾患(COPD)の重要性-現状と将来展望-. 和歌山医学、2003; 54: 218-221
109. 一ノ瀬正和. COPD の薬物療法. 日本呼吸管理学会誌、2003; 13: 327-331

#### 2004 年

110. 松永和人、一ノ瀬正和. IgE と気道過敏性. 喘息、2004; 17: 58-62
111. 山縣俊之、一ノ瀬正和. 気管支拡張薬の使い方. 内科、2004; 93:49-54
112. 南方良章、一ノ瀬正和. 気道平滑筋とその機能. 呼吸と循環、2004; 52: 169-175
113. 一ノ瀬正和. 研究の周辺から. 呼吸、2004; 23: 1-2
114. 一ノ瀬正和、秋山一男、榊原博樹、塚越秀男. 気道過敏性検査の臨床の現状. 呼吸、2004; 23: 9-18
115. 一ノ瀬正和. チオトロピウム. 分子呼吸器病、2004; 8: 78-80
116. 小荒井晃、杉浦久敏、一ノ瀬正和. 活性窒素種の COPD 病態への関与. 分子呼吸

- 器病、2004; 8: 40-47
117. 一ノ瀬正和. 生体内環境からみた発症増悪因子: 呼吸器疾患. クリニシアン、2004; 51: 17-21
  118. 森川昭正、後藤順一、一ノ瀬正和. COPD 患者と吸入指導. COPD frontier、2004; 3: 89-93
  119. 山縣俊之、一ノ瀬正和. 長時間作用型  $\beta_2$  刺激薬に関する臨床的エビデンス. 現代医療、2004; 36: 38-43
  120. 一ノ瀬正和. 巻頭言: この頃考えること. 化学療法の領域、2004; 20: 15
  121. 山縣俊之、一ノ瀬正和. 慢性閉塞性肺疾患. 薬局別冊、2004; 55: 745-751
  122. 一ノ瀬正和. COPD: 新薬開発の動向. 遙か、2004; Spring: 17-21
  123. 南方良章、一ノ瀬正和. 閉塞性肺疾患と呼吸不全. Medical Practice、2004; 21: 516-526
  124. 和田 攻、関沢清久、一ノ瀬正和、村山淳一. 実地医家の慢性呼吸不全診療のポイントとコツ(座談会). Medical Practice、2004; 21: 537-553
  125. 山縣俊之、一ノ瀬正和. 吸入抗コリン薬. 日本胸部臨床、2004; 63: 113-123
  126. 一ノ瀬正和. 気管支喘息の最新の治療. 和歌山県医師会医学雑誌、2004; 33: 1-3
  127. 一ノ瀬正和. 気道過敏性における最近の知見. 内科、2004; 93: 794-799
  128. 山縣俊之、一ノ瀬正和. COPD の炎症-Exhaled Breath Condensate の解析より. 分子呼吸器病、2004; 8: 36-43
  129. 松永和人、一ノ瀬正和. 両側全周性に著名な胸膜肥厚像を認めた胸膜肺アミロイドーシス症例. THE LUNG perspective 2004; 12: 1
  130. 田中寛人、上田弘樹、宮野元成、一ノ瀬正和. 透析患者における C 型慢性肝炎. 日本臨床、2004; 62: 645-648
  131. 一ノ瀬正和. 気道過敏性検査とそれに代わる指標. 診断と治療、2004; 92: 1325-1332
  132. 一ノ瀬正和. COPD における LABA と吸入ステロイドの併用療法. Pharma Medica、2004; 22: 115-116
  133. 山縣俊之、一ノ瀬正和. 吸入ステロイド薬の使い方: ベクロメサゾン. 呼吸器科、2004; 6: 119-124
  134. 一ノ瀬正和、山縣俊之. 長時間作動型吸入抗コリン薬: チオトロピウム. 呼吸、2004; 23: 300-305
  135. 一ノ瀬正和. 気道過敏性検査の臨床と現状. 呼吸、2004; 23: 9-17
  136. 一ノ瀬正和. 重症度に応じた COPD の薬物療法. 日本医師会雑誌、2004; 132: 339-342
  137. 松永和人、一ノ瀬正和. 気管支喘息関連遺伝子. 医学のあゆみ、2004; 210: 867-870

138. 一ノ瀬正和. COPD の治療の実際: 安定期における薬物療法. *Medical Practice*, 2004; 21: 1887-1982
139. 山縣俊之、黒澤 一、一ノ瀬正和. 吸入抗コリン薬-長時間作動型抗コリン薬チオトロピウムを含む-. *日本胸部臨床*, 2004; 63: 113-123
140. 平野綱彦、松永和人、一ノ瀬正和. アレルギー診療 Update. アレルギー治療薬の上手な使い方、気管支喘息 成人 吸入ステロイド薬(解説/特集). *Medicina*, 2004; 41: 378-380
141. 平野綱彦、山縣俊之、一ノ瀬正和. COPD に対する抗コリン薬の効果. *呼吸器科*, 2004; 6: 341-348
142. 福地義之助、三嶋理晃、一ノ瀬正和. 改訂ガイドラインをふまえた COPD の診断と治療-診断のポイントと薬物療法について-(座談会). *Pharma Medica*, 2004; 22: 87-93
143. 平野綱彦、山縣俊之、一ノ瀬正和. 長時間作用型抗コリン薬(Long-acting anticholinergic agent). *呼吸と循環*、医学書院、2004; 152: 1247-1255
144. 一ノ瀬正和. 日常診療における抗ロイコトリエン薬の効果. *アレルギー・免疫*, 2004; 11: 60-67

#### 2005 年

145. 一ノ瀬正和. COPD の薬物療法. *Medical Academy News*, 2005; 925: 4
146. 一ノ瀬正和. 難治性喘息. *喘息*, 2005; 18: 76-80
147. 一ノ瀬正和. <COPD 治療薬>臭化チオトロピウム「スピリーバ」. *医学ジャーナル*, 2005; 41: 137-141
148. 一ノ瀬正和. 新規薬剤による治療の趨勢. *臨床医*, 2005; 31: 10-14
149. 山縣俊之、一ノ瀬正和. 呼気と気道炎症のパラメーター. *アレルギーの臨床*, 2005; 25: 79-82
150. 一ノ瀬正和. 呼吸器疾患管理におけるモニタリング. *Leading article*, *呼吸*, 2005; 24: 130
151. 一ノ瀬正和. COPD の薬物療法-JRS2004 年ガイドラインを中心に. *臨床プラクティス*, 2005; 24: 287-289
152. 南方良章、一ノ瀬正和. II. 病態 2) 気道組織と肺機能の特徴. *アレルギー・免疫*, 2005; 12: 22-27
153. 一ノ瀬正和. 気管支喘息の病態理解と治療の実際. *今月の治療*, 2005; 13: 29-35
154. 一ノ瀬正和. 巻頭言: Real World. *呼吸と循環*, 2005; 53: 345
155. 一ノ瀬正和. 慢性閉塞性肺疾患: 外来でどのような管理を進めるか. *和歌山県医師会医学雑誌*, 2005; 34: 1-4
156. 山縣俊之、一ノ瀬正和. PDE4 阻害薬. *THE LUNG perspectives*, 2005; 13: 74-78
157. 南方良章、一ノ瀬正和. COPD の治療: 気管支拡張薬. *化学療法の領域*, 2005; 21: 117-124

158. 山縣俊之、一ノ瀬正和. 長時間作用性  $\beta$ -刺激薬とは？: 長時間作用性  $\beta$ -刺激薬と短時間作用性  $\beta$ -刺激薬ではどう違うのですか？. Q&A でわかるアレルギー疾患、2005; 1: 58-60
159. 一ノ瀬正和. COPD の発症メカニズムと診断. Therapeutic Research、2005; 26: 811-812
160. 一ノ瀬正和. 長時間作用型抗コリン薬に関する新たな知見. COPD FRONTIER、2005; 4: 63-66
161. 南方良章、一ノ瀬正和. 慢性閉塞性肺疾患の理解. Clinical Study、2005; 26: 45-50
162. 南方良章、一ノ瀬正和. 簡易型スパイロメーター. 呼吸、2005; 24: 515-521
163. 山縣俊之、一ノ瀬正和. 咳喘息とその周辺疾患の治療. 呼吸と循環、2005; 53: 595-602
164. 一ノ瀬正和. 喘息治療における末梢気道炎症の重要性.アレルギーの臨床、2005; 25: 16
165. 松永和人、一ノ瀬正和. 末梢気道炎症の治療吸入ステロイドデバイス. アレルギーの臨床、2005; 25: 38-43
166. 足立 満、工藤宏一郎、一ノ瀬正和、永井厚志. 喘息と COPD(座談会). Asthma Frontier 2005、2005; 4: 9-18
167. 柳澤 悟、一ノ瀬正和. 糖尿病・高血圧症・COPD の共通点は何ですか？. Medical Practice、2005; 22: 1432
168. 一ノ瀬正和. COPD の見つけ方. Medical Practice、2005; 22: 1261
169. 松永和人、一ノ瀬正和. 高齢者における気管支喘息. COPD の臨床上の問題点、留意点. アレルギー科、2005; 20: 1-9
170. 南方良章、一ノ瀬正和. 呼気ガス・呼気凝縮液による閉塞性肺疾患(COPD・喘息)の評価. Pharma Medica、2005; 23: 23-27
171. 南方良章、一ノ瀬正和. 急性増悪時における気管支拡張薬とステロイドの使い方. COPD FRONTIER、2005; 4: 27-32
172. 山縣俊之、一ノ瀬正和. 炎症性気道・肺疾患における呼気ガス分析. 呼吸、2005; 24: 694-699
173. 一ノ瀬正和. COPD 薬物療法の新展開. 日本内科学会雑誌、2005; 94: 1794-1798
174. 松永和人、一ノ瀬正和. 気管支喘息. 呼吸と循環、2005; 53: 907-914
175. 山縣俊之、一ノ瀬正和. 誘発喀痰を用いた気道・肺の炎症の評価. 呼吸、2005; 24: 774-779
176. 平野綱彦、一ノ瀬正和. 薬物治療. 医学と医薬、2005; 54: 441-448
177. 松永和人、一ノ瀬正和. 吸入ステロイド薬使用困難例における介助吸入療法. アレルギー・免疫、2005; 12: 478-483
178. 棟方 充、Stephen T Holgate、一ノ瀬正和、Elisabeth H Bel. 慢性重症喘息における臨床的表現型とその治療を考える. Round Table Discussion(座談会), International Review

of Asthma、2005; 7: 8-24

179. 山縣俊之、一ノ瀬正和. シクレソナイド. 呼吸、2005; 24: 932-937
180. 山縣俊之、一ノ瀬正和. 呼気温度測定の原理と有用性. 呼吸、2005; 24: 938-942
181. 松永和人、一ノ瀬正和. 気管支喘息における気道リモデリングの評価. アレルギーの臨床、2005; 25: 67-71
182. 南方良章、一ノ瀬正和. Lung liquid biopsy. 呼吸器科、2005; 8: 546-550
183. 赤松啓一郎、一ノ瀬正和. 長時間作動型吸入抗コリン薬. Topics in Atopy、2005; 4: 52-53
184. 赤松啓一郎、一ノ瀬正和. COPD に対する LABA の効果-薬理的特性と臨床効果-. アレルギー・免疫、2005; 12: 18-23
185. 一ノ瀬正和. 第 15 回欧州呼吸器学会(ERS). 呼吸、2005; 24: 1064-1065
186. 柳澤 悟、一ノ瀬正和. 神経線維と神経ペプチド. アレルギーの臨床、2005; 25: 17-21

#### 2006 年

187. 永井厚志、三嶋理晃、一ノ瀬正和. COPD の炎症と長期管理-長時間作用型吸入  $\beta_2$  刺激薬(LABA)を中心に-(座談会). 日経メディカル、2006: 62-65
188. 南方良章、一ノ瀬正和. 気道炎症の評価. 内科、2006; 97: 249-254
189. 一ノ瀬正和、気管支喘息. COPD の薬物療法. 日本醫事新報、2006; 4265: 24-28
190. 松永和人、一ノ瀬正和. 鼻炎合併喘息の治療とロイコトリエン受容体拮抗薬. 喘息、2006; 19: 2-6
191. 一ノ瀬正和、Steven D. Shapiro. 気管支喘息の病態研究の最前線. 喘息、2006; 19: 58-63
192. 市川朋宏、一ノ瀬正和. 喘息の発症機序に関わる因子-候補遺伝子も含めて-. Medical Practice、2006; 23: 267-269
193. 一ノ瀬正和. COPD の薬物療法: 現状と将来. 呼吸、2006; 25: 209-224
194. 永井厚志、一ノ瀬正和、西村正治、福地義之助. COPD 診療のニューパラダイム. HUMAN SCIENCE、2006; 17: 4-12
195. 一ノ瀬正和. 気道の炎症とは?. Q&A でわかるアレルギー疾患、2006; 2: 145-147
196. 一ノ瀬正和. 成人気管支喘息・COPD 治療におけるテオフィリン薬の位置づけ. Medical Postgraduates、2006; 44: 1-6
197. 中西正典、山縣俊之、一ノ瀬正和. 長時間作用型  $\beta_2$  刺激薬. 日胸、2006; 65: 328-333
198. 一ノ瀬正和. 慢性期の薬物療法. 日病薬誌、2006; 42: 611-613
199. 一ノ瀬正和. COPD ~安定期と増悪期の薬物療法~. MEDICAMENT NWES、2006; 1868: 13-15
200. 一ノ瀬正和. 薬物療法の実際. Nikkei Medical、2006; 462: 142-144



201. 一ノ瀬正和. 喘息治療の進歩と新しい管理目標. 日本呼吸管理学会誌、2006; 15: 357-363
202. 一ノ瀬正和. 慢性閉塞性肺疾患(COPD). Medical Practice、2006; 23: 913
203. 南方良章、一ノ瀬正和. COPD バイオマーカー開発の現状. Medical Practice、2006; 23: 1005-1006
204. 一ノ瀬正和. エアートラッピングのメカニズム. Prog.Med、2006; 26: 1072-1076
205. 山縣俊之、一ノ瀬正和. 呼吸器疾患のバイオマーカー 呼気ガス分析. 呼と循、2006; 54: 591-598
206. 一ノ瀬正和. 慢性閉塞性肺疾患(COPD). CLINIC magazine、2006; 9月号: 30-34
207. 南方良章、一ノ瀬正和. COPD バイオマーカー開発の現状. Medical Practice、2006; 23: 1005-1006
208. 赤松啓一郎、一ノ瀬正和. 慢性閉塞性肺疾患(COPD)の気管支喘息合併症例を見逃さないように. Medical Practice、2006; 23: 1078-1083
209. 一ノ瀬正和. 肺胞による細気管支牽引の機序. 日本医事新報、2006; 4299: 92-93
210. 一ノ瀬正和. COPD-現状と将来. 総合臨牀、2006; 55: 2403-2406
211. 一ノ瀬正和. COPD と気管支喘息. 呼吸、2006; 25: 827-835
212. 赤松啓一郎、南方良章、一ノ瀬正和. 急性増悪への対応. 総合臨牀、2006; 55: 2495-2498
213. 一ノ瀬正和、Peter J. Barnes. COPD 治療の最新トピックスと長時間作用型抗コリン薬チオトロピウムへの新たな期待. クリニカルプラクティス、2006; 25: 127-130
214. 一ノ瀬正和、Bruce K. Rubin、森川昭廣、田村 弦. 気管支喘息における気道炎症と分泌の管理(座談会). Excerpta Medica、2006; 2-7
215. 松永和人、一ノ瀬正和. 気道リモデリングの評価. アレルギーの臨床、2006; 25: 67-71
216. 中西正典、一ノ瀬正和. 誤嚥性肺炎の治療. 呼吸器科、2006; 10: 186-190
217. 一ノ瀬正和. COPD. Medical Practice、2006; 23: 1557-1561
218. 相澤久道、池田賢次、一ノ瀬正和、大田 健、丸田勝弘. スパイロメトリーは呼吸器診療に不可欠です!(座談会). 呼吸、2006; 25: 1104-1115
219. 一ノ瀬正和、南方良章、山縣俊之、松永和人. 呼吸器疾患. 内科、2006; 98: 1052-1057
220. 山縣俊之、一ノ瀬正和. COPD における呼吸困難の機序と重要性. 日胸、2006; 65: 1080-1089
221. 一ノ瀬正和. COPD の薬物療法-現状と将来展望-. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌、2006; 16: 286-290

## 2007年

222. 南方良章、一ノ瀬正和. COPD. 呼吸、2007; 26: 48-53
223. 一ノ瀬正和. 増悪の管理. COPD FRONTIER、2007; 6: 74-78
224. 一ノ瀬正和、植木 純、灰田美知子、三浦元彦. COPD の管理はどう変わったか(座談会). 呼吸、2007; 26: 237-246
225. 市川朋宏、一ノ瀬正和. 呼気による気道炎症評価法. 呼吸器疾患、2007; 5: 134-136
226. 一ノ瀬正和. 慢性閉塞性肺疾患の薬物療法. 日本内科学会雑誌、2007; 96: 51-57
227. 一ノ瀬正和、田村 弦. あらたな喘息診断法の可能性. 医学のあゆみ、2007; 220: 958-961
228. 杉浦久敏、一ノ瀬正和. COPD の急性増悪の定義・病態・診断. 呼吸と循環、2007; 55: 381-386
229. 一ノ瀬正和. COPD と喘息の鑑別診断. クリニカル プラクティス、2007; 26: 495-498
230. 市川朋宏、一ノ瀬正和. 誘発喀痰. 総合臨床、2007; 56: 1876-1881
231. 一ノ瀬正和. 慢性閉塞性肺疾患. 総合臨床、2007; 56: 161-165
232. 一ノ瀬正和. 分子生物学時代のオランダ仮説. THE LUNG perspectives、2007; 15: 25-30
233. 一ノ瀬正和、西川正憲、勝沼俊雄. National Heart and Lung Institute Imperial Collage での生活と研究(座談会). 喘息、2007; 20: 74-80
234. 一ノ瀬正和. ATS2007. 呼吸、2007; 26: 788-789
235. 足立 満、一ノ瀬正和、下田照文、鈴木直仁、永倉俊和. 喘息治療における吸入ステロイド薬の使い分け(座談会). 呼吸、2007; 26: 707-717
236. 松永和人、一ノ瀬正和. 喘息コントロールのモニタリングとは?. Q&A でわかるアレルギー疾患、2007; 3: 410-412
237. 一ノ瀬正和. 配合剤アドエア(長時間作用性  $\beta_2$  刺激薬/フルチカゾン)の可能性-喘息治療の新展開-. International Review of Asthma、2007; 9: 26-35
238. 一ノ瀬正和. COPD の病態. Medicina、2007; 44: 1836-1839
239. 一ノ瀬正和. IgE の発見から 40 年を振り返って. IgE practice in Asthma、2007; 1: 20-21
240. 松永和人、一ノ瀬正和. 気管支喘息とコリン作動性神経. アレルギー・免疫、2007; 14: 30-34
241. 山縣俊之、一ノ瀬正和. ガイドラインに基づく COPD 治療. 成人病と生活習慣病、2007; 37: 1011-1016
242. 杉浦久敏、一ノ瀬正和. COPD と喘息との比較 COPD と喘息はどう違うのか?. Modern Physician、2007; 27: 1463-1468
243. 杉浦久敏、一ノ瀬正和. 気道炎症と気道リモデリング. 喘息、2007; 20: 27-32
244. 杉浦久敏、一ノ瀬正和. COPD-炎症性メディエーターの測定と気道炎症の評価-. 日

胸、2007; 66: 917-923

245. 一ノ瀬正和. ERS2007. 呼吸、2007; 26: 1074-1076
246. 秋山一男、一ノ瀬正和、Barbro Dahlén、Sven-Erik Dahlén. アスピリン喘息(座談会). *International Review of Asthma*、2007; 9: 8-23
247. 一ノ瀬正和. 薬物療法の新展開-生理的意義と新しい可能性-. *日本臨床*、2007; 65: 689-695
248. 市川朋宏、一ノ瀬正和. 気管支喘息と COPD-病態の類似点と相違点-. *日胸*、2007; 66: S113-S120

#### 2008年

249. 松永和人、市川朋宏、一ノ瀬正和. 気道炎症を評価する③-呼気凝縮液を用いた検討-. *THE LUNG perspectives*、2008; 16: 80-85
250. 柳澤 悟、一ノ瀬正和. 喘息治療効果のモニタリング法. *EBM ジャーナル*、2008; 9: 76-81
251. 小荒井晃、一ノ瀬正和. 喘息治療における抗コリン薬の作用機序とその位置づけ. *分子呼吸器病*、2008; 12: 25-30
252. 一ノ瀬正和. COPD の病態に応じた薬物療法. *Current Therapy*、2008; 26: 14-18
253. 一ノ瀬正和. シクレソニド. *呼吸*、2008; 27: 164-168
254. 一ノ瀬正和. Pulmonary biomarkers in COPD を聴いて. *COPD FRONTIER*、2008; 7: 38-42
255. 一ノ瀬正和. COPD 治療の新展開-症状改善から疾患修飾へ-. *内科*、2008; 101: 202-207
256. 一ノ瀬正和. 気管支喘息の病態と治療. *日本内科学会雑誌*、2008; 97: 103-108
257. 一ノ瀬正和. 気管支喘息と COPD の鑑別診断と治療. *内科医誌(福岡市内科医会)*、2008; 132: 1-2
258. 一ノ瀬正和、一和多俊男、桑平一郎、三浦元彦. COPD の併存症とその対策(座談会). *呼吸*、2008; 27: 446-453
259. 一ノ瀬正和. 抗コリン薬. *薬局*、2008; 59: 24-27
260. 一ノ瀬正和. 重症喘息は気道平滑筋の疾患か?. *IgE practice in Asthma*、2008; 2: 18-19
261. 一ノ瀬正和. 重症喘息の表現型解析の改善に向けて. *IgE practice in Asthma*、2008; 2: 20-21
262. 一ノ瀬正和. コントロール困難な喘息の評価と管理. *IgE practice in Asthma*、2008; 2: 22-24
263. 松永和人、一ノ瀬正和. 和歌山県立医科大学内科学第三講座のアレルギー診療と研修内容. *IgE practice in Asthma*、2008; 2: 29-31
264. 平野綱彦、一ノ瀬正和. 血液検査, 喀痰検査, 呼気ガス検査. *診断と治療*、2008; 96: 1067-1078

265. 福地義之助、相澤久道、一ノ瀬正和. COPD の治療概念を変える可能性のある UPLIFT study への期待-UPLIFT と従来のトライアルの違い-(座談会). *Pharma Medica*, 2008; 26: 81-88
266. 田中寛人、上田弘樹、宮野元成、一ノ瀬正和. 慢性肝炎 (C 型). *臨床透析*, 2008; 24: 1037-1038
267. 一ノ瀬正和. 呼吸機能検査. *日本内科学会雑誌*, 2008; 97: 1206-1213
268. 一ノ瀬正和. 難治性喘息と気道炎症マーカー. *呼吸器科*, 2008; 13: 557-561
269. 一ノ瀬正和. ATS2008. *呼吸*, 2008; 27: 843-844
270. 南方良章、一ノ瀬正和. 治療による“肺年齢”の取り戻し-COPD における 1 秒量の改善-. *日胸*, 2008; 67: 849-859
271. 一ノ瀬正和. COPD(慢性閉塞性肺疾患)診断と治療のためのガイドライン第 2 版 (2004). *診断と治療*, 2008; 196: 165-170
272. 松永和人、一ノ瀬正和. 呼気 NO 濃度測定の基礎と臨床. *検査と技術*, 2008; 36: 1073-1079
273. 一ノ瀬正和. 気管支喘息. *呼吸*, 2008; 27: 965-972
274. 一ノ瀬正和. 気管支病態の評価. *喘息*, 2008; 21: 46-51
275. 足立 満、William W. Busse、一ノ瀬正和. 米国重症喘息研究プログラム(SARP)に学ぶ教訓と今後の課題. *IgE practice in Asthma*, 2008; 2: 2-24
276. 一ノ瀬正和. 重症喘息研究プログラム: 重症喘息とは?. *IgE practice in Asthma*, 2008; 2: 21-23
277. 一ノ瀬正和. 重症喘息における重要な問題点. *IgE practice in Asthma*, 2008; 2: 24-25
278. 松永和人、一ノ瀬正和. 大気汚染への対策とは?. Q&A でわかるアレルギー疾患, 2008; 4: 498-500
279. 市川朋宏、一ノ瀬正和. Mendelson 症候群(acid aspiration pneumonia). *呼吸器症候群(第 2 版)*, 2008; I: 282-284
280. 一ノ瀬正和. 呼気 NO・呼気凝縮液分析. *日胸*, 2008; 67: 104-108
281. 一ノ瀬正和. COPD 治療薬のすべて. *Medical Practice*, 2008; 25: 2049-2053
282. 一ノ瀬正和. 気管支喘息と COPD の異同: 病態・治療の面から. *アレルギー*, 2008; 57: 1124-1133
283. 一ノ瀬正和. COPD 安定期の治療. *Pharma Medica*, 2008; 26: 41-45
284. 一ノ瀬正和. ERS2008. *呼吸*, 2008; 27: 1207-1209
- 2009 年**
285. 足立 満、松永和人、一ノ瀬正和. 本邦における高齢者喘息の現況と課題. *アレルギー・免疫*, 2009; 16: 110-121
286. 松永和人、一ノ瀬正和. 吸入療法の指導方法. *呼と循*, 2009; 57: 71-77

287. 一ノ瀬正和. 気道炎症とリモデリング. *Prog.Med*, 2009; 29: 45-49
288. 一ノ瀬正和. 新規作用機序の喘息治療薬登場にあたって. *IgE practice in asthma*, 2009; 2: 1
289. 一ノ瀬正和, Peter J. Barnes, 秋山一男. 病態生理学の最新の知見に基づいた重症喘息の管理-抗 IgE 抗体製剤の位置づけを含めて-. *IgE practice in asthma*, 2009; 2: 6-16
290. 一ノ瀬正和. 重症喘息の臨床的な多様性. *IgE practice in asthma*, 2009; 2: 17-20
291. 一ノ瀬正和. 重症喘息のメカニズムとその影響. *IgE practice in asthma*, 2009; 2: 21-24
292. 一ノ瀬正和. COPD の治療-安定期. *臨床と研究*, 2009; 86: 14-18
293. 相澤久道, 一ノ瀬正和, 金澤 實, 山門 実. 呼吸機能をどう位置づけるか-肺年齢の意義-(座談会). *呼吸*, 2009; 28: 120-127
294. 一ノ瀬正和. COPD の大規模試験の動向-高齢者における COPD-. *Geriat. Med*, 2009; 47: 209-212
295. 一ノ瀬正和. COPD の国際ガイドライン『GOLD』について. *臨床画像別刷*, 2009; 25: 122-127
296. 松永和人, 一ノ瀬正和. 気道アレルギー疾患に対する抗炎症治療のトピックス. *アレルギーの臨床*, 2009; 29: 30-36
297. 西村正治, 一ノ瀬正和, 長瀬隆英. COPD 治療の概念はどう変わるのか-UPLIFT の結果を読み込む-. *COPD FRONTIER*, 2009; 8: 4-12
298. 福地義之助, 相澤久道, 一ノ瀬正和. UPLIFT study をいかに解釈すべきか. *Pharma Medica*, 2009; 27: 77-86
299. 一ノ瀬正和. 重要な病態の評価法と対策 気道炎症の評価. *Medical Practice*, 2009; 26: 410-414
300. 一ノ瀬正和. COPD に対する国際ガイドライン(GOLD)の新旧比較. *呼吸器科*, 2009; 15: 236-240
301. 一ノ瀬正和. 重症アレルギー性喘息による負担と抗 IgE 抗体. *IgE practice in asthma*, 2009; 5: 26-37
302. 一ノ瀬正和. COPD 治療の生命予後改善のエビデンス-TORCH 研究と UPLIFT 研究. *日本医師会雑誌*, 2009; 138: 564-566
303. 松永和人, 一ノ瀬正和. 高齢者における喘息管理の問題点と留意点. *International Review of Asthma*, 2009; 11: 34-41
304. 一ノ瀬正和. 難治性喘息の現況と展望. *呼吸*, 2009; 28: 609-614
305. 須甲松伸, 一ノ瀬正和, 大矢幸弘, 永田真. 呼吸器疾患のセルフマネジメント(座談会). *呼吸*, 2009; 28: 689-699
306. 一ノ瀬正和. プロカテロールの COPD へのアシストユース-呼吸機能の改善と患者活動性の向上 *呼吸*, 2009; 28: 733-737
307. 赤松啓一郎, 一ノ瀬正和. 気管支喘息合併 COPD の 1 患者. *治療学*, 2009; 43:

1014-1017

308. 平野綱彦、一ノ瀬正和. 慢性閉塞性肺疾患の気道炎症における窒素化ストレスの役割-治療ターゲットとしての可能性-. 和歌山医学、2009; 60: 94-98
309. 一ノ瀬正和、植木純、木村啓二. COPD 大規模臨床試験が教えるもの(座談会). 呼吸、2009; 28: 869-877
310. 一ノ瀬正和. IgE と気道過敏性. IgE practice in asthma、2009; 3: 22-27
311. 一ノ瀬正和、安定期の管理指針(薬物療法を中心に). COPD Frontier、2009; 8: 62-67
312. 一ノ瀬正和. COPD の薬物療法 (安定期). 呼吸器科、2009; 16: 85-91
313. 一ノ瀬正和. COPD 臨床試験解釈の注意点. 医学のあゆみ、2009; 231: 298-303
314. 一ノ瀬正和. 大規模試験からみた COPD 薬物治療の有用性. 呼吸と循環、2009; 57: 1183-1189
315. 柳澤 悟、一ノ瀬正和. ガイドラインに基づく COPD の診断 呼吸機能検査・動脈血液ガス検査のポイント. レジデント、2009; 2: 36-41
316. 大田 健、一ノ瀬正和、Dr. Paul M. O' Byrne. 軽症喘息患者における ICS / LABA 配合剤の位置付け 座談会. 新薬と臨床、2009; 58: 122-124
317. 一ノ瀬正和. バイオマーカー測定の意義と限界. 日本内科学会雑誌、2009; 98: 3026-3032
318. 一ノ瀬正和. 気道炎症モニタリング:気管支喘息の新しい管理目標. 感染 炎症 免疫、2009; 39: 98-100
319. 松永和人、一ノ瀬正和. 喘息の最新治療、抗コリン薬の位置付け. アレルギーの臨、2009; 29: 1257-1262
320. 松永和人、一ノ瀬正和. 認知症と高齢者喘息. Prog Med、2009; 29: 3033-3038

#### 2010 年

321. 平野綱彦、一ノ瀬正和. 新しい末梢気道評価法 呼気 NO. アレルギー・免疫、2010; 17: 74-81
322. 一ノ瀬正和. 重症喘息研究プログラム (SARP) を再考する(対談). IgE practice in asthma、2010; 4: 6-15
323. 一ノ瀬正和. 喘息・COPD 治療薬 アドエア(フルチカゾン/ サルメテロール配合剤). 分子呼吸器病、2010; 14: 32-35
324. 一ノ瀬正和. ブデソニド / ホルモテロール配合剤 (シムビコート タービュヘイラー) の安全性. アレルギー・免疫、2010; 17: 138-148
325. 一ノ瀬正和. 喘息・COPD の合併の実態とその鑑別 -バイオマーカーを中心として. 喘息の診断と治療における問題点 2010; 29: 151-155
326. 松永和人、一ノ瀬正和. 抗コリン薬の位置付け. アレルギーの臨床、2010; 29: 45-50
327. 一ノ瀬正和. 新規吸入デバイス-COPD 治療薬 チオトロピウム レスピマット-. Pharma Medica、2010; 28-83-89

328. 一ノ瀬正和. 喘息予防・管理ガイドライン 2009 -薬物療法のポイント-. アレルギー、2010; 59: 92-97
329. 一ノ瀬正和. 気管支喘息の管理効率向上について. IgE practice in asthma、2010; 3: 1
330. 一ノ瀬正和. COPD の国際大規模試験と早期介入の大切さ. 日本医師会雑誌 2010; 138: 2495-2500
331. 一ノ瀬正和. 各種組み合わせの配合薬. COPD Frontier 2010; 9: 59-64
332. 松永和人、一ノ瀬正和. One airway, one disease の治療戦略 -ロイコトリエン受容体拮抗薬-. 喘息 2010; 23: 44-49
333. 一ノ瀬正和. Christopher B. Cooper、相澤久道、COPD (慢性閉塞性肺疾患) における SABA (短時間作用性  $\beta_2$  刺激薬) 頓用の効果. 呼吸 2010; 29: 355-363
334. 一ノ瀬正和. チオトロピウム: ハンディヘラーからレスピマットへ. 呼吸 2010; 29: 395-403
335. 平野綱彦、一ノ瀬正和. 呼吸器検査 呼気 NO の測定方法とその意義. アレルギー・免疫 2010; 17: 116-123
336. 一ノ瀬正和. 診療ガイドラインに基づく COPD 診療. 永井書店 総合臨床 2010; 59: 310-314
337. 一ノ瀬正和. 真の喘息コントロールとは何か (座談会). International Review of Asthma&COPD. 2010; 12: 5-23
338. 松永和人、一ノ瀬正和. 喘息発作の治療 高齢者喘息への対応. Mebio 2010; 27: 64-71
339. 一ノ瀬正和. 新ガイドラインにみる COPD 薬物療法の現状と将来 -マクロライド療法の可能性を含めて-. 診療と新薬 2010; 47: 3-10
340. 一ノ瀬正和. 喘息と COPD の類似点と相違点 : 病態から. 呼吸器内科 2010; 18: 193-201
341. 一ノ瀬正和(司会)、西山秀樹、乾 宏行、松永和人. 喘息治療の現状と将来展望 -末梢気道病変に対する超微粒子製剤シクレソニド (オルベスコ)の有効活用を目指して (座談会)-. Prog Med 2010; 30:129-134
342. 一ノ瀬正和. 内科領域の診療ガイドライン概観 6 呼吸器. 日本内科学会雑誌、2010; 99: 56-64
- 2011 年**
343. 一ノ瀬正和. 日常診療における呼気 NO 測定の意義. 呼吸と循環、2011; 59: 409-415
344. 一ノ瀬正和. 日本呼吸器学会の COPD ガイドライン(2009)に基づいた実地医家の診療のすすめかた. Medical Practice、2011; 28: 399-409
345. 一ノ瀬正和. COPD-現状と将来. 総合臨床、2011; 60: 489-493
346. 一ノ瀬正和. COPD と気管支喘息. 呼吸、2011; 30: 8-18

347. 一ノ瀬正和. COPD 治療でステロイドはどう用いるべきか?. 内科、2011; 107: 977-982
348. 一ノ瀬正和. COPD を合併する喘息への対応. 日本医師会雑誌、2011; 140: 525-529
349. 赤松啓一郎、一ノ瀬正和. 貼付型  $\beta_2$  刺激薬投与中の COPD 患者に対するチオトロピウムによる呼吸機能と呼吸器困難の改善効果. 和歌山医学、2011; 62: 20-23
350. 一ノ瀬正和、永井厚志. 新規長時間作用性  $\beta_2$  刺激薬インダカテロール: COPD 治療における臨床上的位置づけ. 呼吸、2011; 30: 623-631
351. 一ノ瀬正和. 気管支喘息、医療ジャーナル、2011; 47: 311-317
352. 一ノ瀬正和 (司会)、植木 純、小川浩正、藤本圭作. COPD 患者の息切れへの対応: SABA の上手な使い方 (座談会). 呼吸、2011; 30: 676-683
353. 南方良章、一ノ瀬正和. 我が国における COPD の疫学 -諸外国との比較-. 日本臨床、2011; 69: 1721-1726
354. 一ノ瀬正和. 吸入ステロイドと長時間作用性  $\beta_2$  刺激薬の合剤のインパクト. 内科、2011; 108: 390-395
355. Kjell Alving、一ノ瀬正和 (司会)、相澤一男、新実彰男. 呼気一酸化窒素( $\text{FeNO}$ )と呼吸器疾患 (座談会). 呼吸、2011; 773-781
356. 松永和人、一ノ瀬正和. 成人喘息の早期診断における課題と展望. アレルギーの臨床、2011; 31: 27-31
357. 松永和人、一ノ瀬正和. 呼気 NO 濃度測定: 喘息補助診断の新しいツール. アレルギーの臨床、2011; 31: 342-346
358. 一ノ瀬正和. アレルギー疾患の病態理解と管理の進展. アレルギーの臨床、2011; 31: 16
359. 平野綱彦、一ノ瀬正和. 声帯機能不全. 呼吸、2011; 30: 986-989
360. 一ノ瀬正和. 気道炎症のマーカー. Medical Technology、2011; 39: 1286-1290
- 2012 年**
361. 菊地利明、貫和敏博、一ノ瀬正和. 遺伝子治療の回顧と展望. Antisense、2012; 16: 16-24
362. 一ノ瀬正和. チオトロピウム. 薬局別冊、2012; 63: 82-87
363. 一ノ瀬正和. 喘息と COPD 治療における抗コリン薬と  $\beta_2$  刺激薬の位置づけ. Medicina、2012; 49: 470-473
364. 松永和人、一ノ瀬正和. 喘息長期管理のための炎症モニタリング. 臨床と研究、2012; 89: 63-68
365. 一ノ瀬正和. 序論. 最新医学 2012; 67: 5
366. 松永和人、一ノ瀬正和. 気道炎症モニタリングの現状と展望. 最新医学 2012; 67: 34-40
367. 一ノ瀬正和. 慢性閉塞性肺疾患(COPD). 検査と技術、2012; 40: 1324-1329



## 2013年

368. 一ノ瀬正和. 安定期の薬物療法. 診断と治療、2013; 101: 43-49
369. 一ノ瀬正和. 管理と治療の進歩. 薬物療法(特集/気管支喘息:診断と治療の進歩). 日本内科学会雑誌、2013; 102: 1392-1396
370. 一ノ瀬正和. 特集 COPD(慢性閉塞性肺疾患)-病態解明から治療まで-.薬剤介入による大規模試験. 最新医学社、2013; 68: 1125-1131
371. 一ノ瀬正和. COPD 治療の最前線. 日本内科学会雑誌、2013; 102: 1822-1828
372. 一ノ瀬正和. 安定期の管理、日本呼吸器学会 COPD ガイドライン第4版をめぐって. 日本胸部臨床、2013; 72: 1219-1227
373. 一ノ瀬正和. 特集 内科診療にガイドラインを生かす、呼吸器疾患 COPD. Medicina、2013; 50: 118-123
374. 玉田勉、一ノ瀬正和. COPD 薬物治療法の新展開. 呼吸、2013; 32: 1103-1121
375. 玉田勉、一ノ瀬正和. 【ガイドラインをふまえ、気管支喘息の病態研究・治療の最前線に迫る】 COPD 合併喘息の病態の最新知見と診断・治療の実際を探る. Respiratory Medical Research、2013; 1: 9-24
376. 一ノ瀬正和. 慢性閉塞性肺疾患の新治療法開発を目指して. 東北医学雑誌、2013; 125: 249-251
377. 一ノ瀬正和. 【内科診療にガイドラインを生かす】 呼吸器疾患 COPD. Medicina、2013; 50: 18-123
378. 玉田勉、一ノ瀬正和. 呼吸器疾患の新治療 シーブリ. 呼吸、2013; 32: 1053-1059
379. 東出直樹、菊地利明、一ノ瀬正和. 【最新肺癌学-基礎と臨床の最新研究動向-】 肺癌の疫学 危険因子 家族性肺癌. 日本臨床 最新肺癌学、2013; 1: 78-83
380. 小荒井晃、一ノ瀬正和. 呼吸器疾患の新治療 オーキシス 9 $\mu$ g タービュヘイラー. 呼吸、2013; 32: 935-943
381. 杉浦久敏、一ノ瀬正和. 【活性酸素-基礎から病態解明・制御まで】 疾患病態・臨床編 慢性閉塞性肺疾患と酸化・ニトロ化ストレス. 医学のあゆみ、2013; 47: 863-869
382. 永井厚志、一ノ瀬正和、西村正治、三嶋理晃. COPD ガイドライン第4版について. 呼吸、2013; 32: 596-605
383. 一ノ瀬正和. 気管支喘息診断の新しい指標 呼気一酸化窒素濃度と呼気凝縮液. 宮城県医師会報、2013; 814: 830-834
384. 柳澤悟、一ノ瀬正和. 【変貌する肺の生活習慣病 COPD-早期診断で併存症にも好影響】 大きく改善した COPD の治療効果 COPD 治療と全身併存症の改善. Modern Physician、2013; 33: 1408-1412
385. 赤松啓一郎、松永和人、杉浦久敏、小荒井晃、平野綱彦、南方良章、一ノ瀬正和. 気管支喘息と COPD の合併 気管支喘息と COPD 合併の診断. 呼吸、2013; 32: 753-755
386. 一ノ瀬正和. COPD 診断と治療の新しい考え方 新ガイドラインのポイントとマクロライドの可能性を中心に. 診療と新薬、2013; 50: 497-504
387. 杉浦久敏、一ノ瀬正和. 【気管支喘息の研究 アップデート】 気管支喘息のバイオ

マーカーをめぐって. アレルギー・免疫、2013; 20: 972-982

388. 一ノ瀬正和. 【COPD の診断と治療】 COPD の治療 安定期の薬物療法. 診断と治療、2013; 101: 855-861
389. 柳澤悟、一ノ瀬正和. 神経線維と神経ペプチド. アレルギーと神経ペプチド、2013; 9: 34-39
390. 一ノ瀬正和. 【COPD-その病態と最新治療】 治療薬の大規模試験と解釈. カレントセラピー、2013; 31: 499-503
391. 玉田勉、一ノ瀬正和. 【COPD 治療のキーポイント】 治療 気管支拡張薬. Mebio、2013; 30: 43-57
392. 柳澤 悟、一ノ瀬 正和. 【難治性気管支喘息の最前線】 喘息の難治化要因とその対策 環境要因 喫煙、アレルゲン、職業、大気汚染・酸化ストレスなど. 呼吸器内科、2013; 23: 157-162
393. 村松聡士、玉田勉、一ノ瀬正和. 【重症喘息の背景因子と治療戦略】 重症喘息の多様性とその治療戦略. 臨床免疫・アレルギー科、2013; 59: 367-373
394. 玉田勉、一ノ瀬正和. COPD 薬物療法の新展開. 呼吸、2013; 32: 1103-1121
395. 村上康司、玉田勉、奈良正之、光石陽一郎、村松聡士、海老名雅仁、一ノ瀬正和. 診断基準改訂前後のサルコイドーシスの臨床的特徴と予後予測因子としての sIL-2R 変化率の検討. 日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会雑誌、2013; 33: 83-89

#### 2014 年

396. 一ノ瀬正和. 呼吸器疾患の新治療 新規喘息長期管理薬チオトロピウム 作用機序と臨床効果. 呼吸、2014; 33: 1133-1140
397. 田畑 雅央、一ノ瀬正和. スパイロメトリー・フローボリューム曲線. 呼吸、2014; 33: 998-1005
398. 玉田 勉、奈良正之、村上康司、村松聡士、一ノ瀬正和. TLR と気道分泌. 呼吸、2014; 33: 971-981
399. 一ノ瀬正和. 【気管支喘息 最新の話】 新規喘息治療 吸入ステロイド/ $\beta$ 2 刺激薬配合薬、抗コリン薬. 呼吸と循環、2014; 62: 1155-1160
400. 杉浦久敏、一ノ瀬正和. 【臨床試験へのチャレンジ-呼吸器領域における臨床試験の立案から報告まで-】 COPD. 日本胸部臨床、2014; 73: 1165-1176
401. 玉田勉、一ノ瀬正和. 【全身成人病としての COPD】 新しい治療薬とその使い方. 成人病と生活習慣病、2014; 44: 1027-1033
402. 一ノ瀬正和. 【気管支喘息・COPD における肺機能～呼吸生理と病態生理～】 気道・肺病変の定量化. アレルギー・免疫、2014; 21: 1327-1329
403. 一ノ瀬正和、福地義之助、長谷川紗由美. 日本における慢性閉塞性肺疾患(COPD)患者自覚症状および治療実態調査. 呼吸、2014; 33: 813-823
404. 一ノ瀬正和. 中高年の肺炎のリスクファクター 慢性閉塞性肺疾患(COPD). 感染防止、2014; 24: 1-6
405. 小荒井晃、一ノ瀬正和. 【気管支喘息における新規生物学的製剤開発の可能性を探る】 ケモカイン受容体(CCR3、CCR4、CXCR2). Respiratory Medical Research、2014; 2:

406. 小荒井晃、一ノ瀬正和. これでわかる!最新のバイオマーカー(第3回) 呼気凝縮液中のバイオマーカー. *Respiratory Medical Research*, 2014; 2: 125-128
407. 一ノ瀬正和、工藤翔二、桑平一郎、戸蒔雅文. 一般診療における COPD の診断の改善に向けて. *呼吸*, 2014; 33: 642-650
408. 杉浦久敏、一ノ瀬正和. 【そこが知りたかった!-生理機能検査 最新の動向-】 呼吸器 NO 測定. *臨床病理レビュー*, 2014; 151: 68-76
409. 村松聡士、一ノ瀬正和. 【喘息に影響する種々の側面とその課題をめぐって】 年齢層ごとの課題と喘息の種々の側面 成人喘息. *Progress in Medicine*, 2014; 34: 1001-1005
410. 山田充啓、一ノ瀬正和. 【エクソソームによる疾患研究の新展開】 呼吸器疾患におけるエクソソーム. *BIO Clinica*, 2014; 29: 536-539
411. 玉田勉、一ノ瀬正和. 呼吸器疾患の新治療 ウルティプロ. *呼吸*, 2014; 33: 477-484
412. 杉浦久敏、一ノ瀬正和. 【COPD 著しく進歩したこれからの実地診療の実際】 COPD とはどんな病気か? 新しい COPD ガイド. ライン(2013)より 実地医家の具体的な治療と管理実践指針. *Medical Practice*, 2014; 31: 536-544
413. 玉田勉、一ノ瀬正和. 呼吸器疾患の新治療 レルベア・エリプタ. *呼吸*, 2014; 33: 270-277
414. 玉田勉、一ノ瀬正和. これでわかる!最新のバイオマーカー(第2回) 呼気中一酸化窒素(FeNO). *Respiratory Medical Research*, 2014; 2: 49-52
415. 小林誠、一ノ瀬正和. 【日本呼吸器学会 COPD ガイドライン第4版を読み解く】 COPD の管理目標と安定期管理. *Respiratory Medical Research*, 2014; 2: 19-24
416. 一ノ瀬正和. 気腫病変への COPD 薬の有効性. *日本医事新報*, 2014; 4693: 65-66
417. 柳澤悟、一ノ瀬正和. 【段階に応じた COPD 薬物治療】 コントロール不良 喘息合併・頻回の増悪 吸入ステロイドと喀痰調整薬の意義. *日本医事新報*, 2014; 4681: 35-39
418. 松永和人、一ノ瀬正和、亀井雅、坂本幸裕、早田敦司、赤松啓一郎、平野綱彦. COPD における mMRC スコアと閉塞性換気障害による病期分類との関連性. *呼吸*, 2014; 33: 173-178
419. 玉田勉、一ノ瀬正和. 【気道過敏性の分子メカニズムと治療】 神経支配による気道過敏性機序とその治療. *アレルギーの臨床*, 2014; 34: 221-226
420. 光石陽一郎、一ノ瀬正和. 【喘息診療最前線】 診断最前線 バイオマーカー. *Mebio*, 2014; 31: 17-25
421. 菊地利明、Santoso Arif、貫和敏博、一ノ瀬正和. 肺組織幹細胞に着目した新規治療法の開発. *呼吸*, 2014; 33: 72-76
422. 玉田勉、一ノ瀬正和. 【COPD 治療の新時代 21 世紀の「社会的」生活習慣病】 新規治療薬の開発と展望. *内科*, 2014; 113: 227-234
- 2015 年**
423. 一ノ瀬正和. 内科医からみた先制医療 全身疾患としての COPD 早期介入による併存症予防. *日本内科学会雑誌*, 2015; 104: 1812-1818

424. 三橋善哉、菊地利明、山田充啓、一ノ瀬正和. 肺のマイクロバイオーム. 呼吸、2015; 34: 637-644
425. 一ノ瀬正和、滝沢綾子. 長時間作用性  $\beta_2$  刺激薬・オロダテロールの COPD に対する臨床的有用性. 薬理と治療、2015; 43: 1109-1125
426. 宮内栄作、一ノ瀬正和. 【アレルギー性疾患における新規治療戦略】抗 IgE 抗体療法. 臨床免疫・アレルギー科、2015; 64: 145-149
427. 宮内栄作、一ノ瀬正和. 病気のはなし 慢性閉塞性肺疾患. 検査と技術、2015; 43: 744-750
428. 佐藤輝幸、一ノ瀬正和. 【外来で出会う呼吸器 common 疾患】呼吸器系の common 症状 呼吸困難への対応. Medicina、2015; 52: 1457-1459
429. 一ノ瀬正和. 【COPD(慢性閉塞性肺疾患);内科医の診断と治療の向上を目指して】COPD 病態・治療 治療. 日本内科学会雑誌、2015; 104: 1108-1114
430. 一ノ瀬正和、【内科疾患の診断基準・病型分類・重症度】(第 1 章)呼吸器 慢性閉塞性肺疾患(COPD). 内科、2015; 115: 896-898
431. 玉田勉、一ノ瀬正和. 呼吸器疾患の新治療 アノーロ・エリプタ. 呼吸、2015; 34: 491-500
432. 一ノ瀬正和、桑平一郎、長瀬洋之、茂木孝. 喘息と COPD オーバーラップ症候群 (ACOS). 呼吸、2015; 34: 446-454
433. 一ノ瀬正和. 喘息と COPD 合併症候群. 臨床呼吸生理、2015; 47: 39-41
434. 杉浦久敏、一ノ瀬正和. 【発症前に診断し、介入する 先制医療 実現のための医学研究】(第 2 章)主要な疾患と先制医療 遺伝素因、環境因子、発症前診断の可能性、予防法 呼吸器疾患 慢性閉塞性肺疾患(COPD). 実験医学、2015; 33: 1098-1105
435. 一ノ瀬正和、御牧洋司、三嶋理晃、永井厚志. アクリジニウム臭化物の臨床的研究 アクリジニウム 新規長時間作用性抗コリン薬. 臨床医薬、2015; 31: 181-195
436. 玉田勉、一ノ瀬正和. COPD とのオーバーラップ Asthma COPD overlap syndrome(ACOS). 呼吸器内科、2015; 27: 228-235
437. 玉田勉、一ノ瀬正和. 【難治性喘息 Up-Date-病態から治療まで-】喘息の難治化因子 喫煙. Respiratory Medical Research、2015; 3: 20-24
438. 村松聡士、一ノ瀬正和. 【喘息と COPD のオーバーラップ症候群(ACOS)をめぐって】診断. アレルギー・免疫、2015; 22: 554-559
439. 玉田勉、一ノ瀬正和. 【アレルギー疾患治療の有効性評価】内科 バイオマーカーからの評価 気管支喘息の気道炎症を反映するバイオマーカー. アレルギー・免疫、2015; 22: 224-233
440. 一ノ瀬正和. 【喘息に対する吸入療法の新たな展開-抗コリン薬の有用性について考える-】成人気管支喘息を対象としたチオトロピウムの臨床効果. 吸入療法、2015; 7: 34-40
- 2018 年**
441. 一ノ瀬正和【気管支喘息:研究と診療の最前線】気管支喘息の病態:オーバービュー. 呼吸器内科、2018; 34(1): 1-6